

下栗須伊勢塚遺跡

主要地方道藤岡大胡線地域活力基盤創造事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2010

群馬県藤岡土木事務所
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

序

本書は、藤岡市下栗須に所在し、主要地方道藤岡大胡線地域活力基盤創造事業に伴い発掘調査された下栗須伊勢塚遺跡の調査報告書です。発掘調査は、群馬県藤岡土木事務所からの委託を受け、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が、平成19年度に実施しました。

今回の調査により、古墳時代から江戸時代の遺構と遺物などが出土し、この地域に古くから先人たちの生活が展開していたことが明らかとなりました。

本遺跡周辺は、戸塚古墳群に含まれており、青銅鏡の出土地として周知される稲荷塚古墳をはじめ、多くの古墳が点在する地域です。これまで、株木B遺跡などで古墳の調査が知られていました。こうしたなか、今回の調査で古墳築造期と重なる集落が発見されたことは、墓域に対応する居住域の存在を示しており、古代の集落景観を雄弁に語らせる成果を得ることができました。

この報告書が群馬県の歴史研究をはじめ、地域の資料として学校教育、郷土学習にも役立てていただけるものと確信いたしております。

最後になりましたが、発掘調査から報告書作成にいたるまで、群馬県県土整備部および藤岡土木事務所、群馬県教育委員会文化財保護課、藤岡市教育委員会および地元関係者の皆様からご指導、ご協力を賜りました。心より感謝の意を表し、序といたします。

平成22年3月

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長 須田 栄一

例 言

1. 本書は、主要地方道藤岡大胡線地域活力基盤創造事業に伴い発掘調査された下栗須伊勢塚遺跡の調査報告書である。
2. 下栗須伊勢塚遺跡は、群馬県藤岡市下栗須字伊勢塚250-1番地ほかに所在する。
3. 事業主体 群馬県土整備部藤岡土木事務所
4. 調査主体 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
5. 調査期間 平成19年（2007）11月1日～平成19年12月28日
6. 整理期間 平成21年（2009）12月1日～平成22年（2010）2月28日
7. 発掘調査体制は次のとおりである。

管理指導 理事長 高橋勇夫、常務理事 木村裕紀、事務局長 津金澤吉茂
総務部長 萩原勉、調査研究部長 西田健彦

事務担当 総務GL 笠原秀樹、経理GL 石井清、須田朋子、斎藤恵利子、柳岡良宏、矢島一美、
齋藤陽子、今井もと子、若田誠、佐藤美佐子、本間久美子、北原かおり、狩野貞子、武藤秀典

調査担当 高井佳弘、田村邦宏
8. 整理事業体制は次のとおりである。

管理指導 理事長 高橋勇夫、須田栄一、常務理事 木村裕紀、事業局長 相京建史、
総務部長 笠原秀樹、調査研究部長 飯島義雄、資料整理部長 石坂茂、
資料整理第2GL 大木紳一郎、経理GL 佐嶋芳明

事務担当 係長（総括）須田朋子、柳岡良宏、田口小百合、矢島一美、高橋次代、今井もと子、若田誠、
佐藤美佐子、本間久美子、北原かおり、狩野貞子、武藤秀典

整理担当 編集 飯森康広、実測 関晴彦、橋本淳、岩崎泰一、デジタル編集 齊田智彦

整理作業 金属器保存処理 関邦一、津久井桂一、多田ひさ子、増田政子
機械実測 田中精子、町田礼子、田所順子、木原幸子、岸弘子、福島瑞希
デジタル写真図版作成 牧野裕美、市田武子、酒井史恵、廣津真希子、安藤美奈子、
矢端真祖、高梨由美子、横塚由香、須藤絵美、下川陽子
9. 本書作成の担当は次のとおりである。

編集・本文執筆 飯森康広、デジタル編集 齊田智彦

遺物観察 縄文土器ほか 飯森康広、土器・石器 関晴彦、縄文時代石器 岩崎泰一

遺物年代比定 古墳時代土器 坂口一、埴輪 徳江秀夫、奈良・平安時代土器 榎岡正信

遺構写真撮影 高井佳弘、田村邦宏

遺物写真撮影 佐藤元彦

石材同定 飯島静男、地質調査分析 株式会社火山灰考古学研究所
10. 保管については、記録類と出土遺物は群馬県の所有となり、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団で管理し、群馬県埋蔵文化財調査センターに収納している。
11. 発掘調査および本書の作成では、以下の方々にご協力ならびに指導をいただいた。記して感謝の意を表します（敬称略）。

群馬県教育委員会、群馬県藤岡土木事務所、藤岡市教育委員会

凡例

1. 挿図中に使用した方位は、座標北を表している。
2. 遺構図については、各挿図中にスケールを添付したが、原則下記の縮尺で掲載した。
住居跡 1 : 6.0 住居跡のカマド 1 : 3.0 土坑・ピット 1 : 4.0 溝 1 : 16.0
3. 遺構図中の網掛けは、下記のとおりである。



4. 遺物図の縮尺は原則下記のとおりであり、それ以外の場合のみ、各挿図番号に ○ 書きを付した。
縄文土器破片 1 : 3 打製石斧・凹石 1 : 3 こも編み石 1 : 4
杯・椀類、壺甕類破片（土師器・須恵器） 1 : 3 甕、壺甕類 1 : 4
5. 遺物図中の網掛けは、下記のとおりである。ただし、特殊なものについては図中に凡例を付した。



6. 竪穴住居跡出土糞類の使用痕については、小林正史、外山政子の研究を参考とした。
・小林正史2008 「土器付着炭化物分析 -スス・コゲからみた縄文深鉢による調理方法-」『縄文時代の考古学7』同成社
・外山政子1992 「葺か竈か -もう一つの竈構造について-」『研究紀要』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
7. 竪穴住居跡の主軸方位については、カマドを有する辺に対して直角方向を主軸として計測した。カマドを有しないものについては、長辺を主軸として計測した。
8. 遺構名称および付番については、原則調査時点のものをそのまま使用した。このため、以下のとおり欠番が生じた。

目次

I	発掘調査と遺跡の概要	
1	発掘調査に至る経過	1
2	整理業務の経過	1
3	遺跡の立地と周辺遺跡	
	(1)遺跡の立地	2
	(2)周辺の遺跡	3
4	発掘調査の方法と経過	
	(1)調査区の設定	7
	(2)調査の方法	7
	(3)調査の経過	8
	(4)整理作業の経過	8
II	発掘調査の記録	
1	遺跡の概要	
	(1)基本土層	9
	(2)遺構の概要	9
2	A区の遺構と遺物	
	(1)竪穴住居跡	11
	(2)土坑	18
	(3)土坑（ピット状）	19
	(4)溝	21
	(5)遺構外遺物	21
3	B区の遺構と遺物	
	(1)竪穴住居跡	22
	(2)土坑	40
	(3)土坑（ピット状）	41
	(4)遺構外遺物	42
4	自然科学分析	43
5	まとめ	46

遺物観察表

写真図版

抄録

挿図目次

第1図	遺跡位置図	1	第23図	B区3・6号住居跡掘り方、 3・6号住居跡出土遺物	26
第2図	遺跡周辺の地形	2	第24図	B区4号住居跡	27
第3図	遺跡調査区及び周辺遺跡 (1:5,000)	5	第25図	B区4号住居跡カマド・出土遺物 (1)	28
第4図	周辺遺跡 (国土地理院 1:25,000 「高崎」使用)	6	第26図	B区4号住居跡出土遺物 (2)	29
第5図	基本土層図	9	第27図	B区5号住居跡	30
第6図	遺跡全体図 (1:300)	10	第28図	B区5号住居跡カマド・出土遺物 (1)	31
第7図	A区1号住居跡・掘り方・出土遺物 (1)	11	第29図	B区5号住居跡出土遺物 (2)	32
第8図	A区1号住居跡カマド・出土遺物(2)	12	第30図	B区7号住居跡	32
第9図	A区2号住居跡	13	第31図	B区8・11号住居跡、 8号住居跡附蔵穴	33
第10図	A区2号住居跡カマド・掘り方	14	第32図	B区8号住居跡カマド・出土遺物 (1)	35
第11図	A区2号住居跡出土遺物 (1)	15	第33図	B区8号住居跡出土遺物 (2)	36
第12図	A区2号住居跡出土遺物 (2)	16	第34図	B区11号住居跡出土遺物	36
第13図	A区3号住居跡・出土遺物	17	第35図	B区9・10号住居跡、 9号住居跡出土遺物 (1)	38
第14図	A区2～8・10・15・16号土坑	18	第36図	B区9号住居跡カマド・出土遺物 (2)	39
第15図	A区19・20号土坑	19	第37図	B区11・13・17号土坑、 13号土坑出土遺物	40
第16図	A区1・9・11～14・ 17・18・21～25号土坑	20	第38図	B区1～10・12・14・15号土坑、 8号土坑出土遺物	41
第17図	A区1号溝	21	第39図	B区遺構外遺物	42
第18図	A区遺構外出土遺物	21	第40図	A・B区分析部分の土層柱状図	45
第19図	B区1号住居跡	22			
第20図	B区1号住居跡カマド・出土遺物	23			
第21図	B区2号住居跡・出土遺物	24			
第22図	B区3・6号住居跡、3号住居跡カマド	25			

表目次

第1表	周辺遺跡一覧	4	第4表	竪穴住居跡時期別一覧	46
第2表	A区土坑(ピット状)計測表	19	第5表	竪穴住居跡計測値一覧	46
第3表	B区土坑(ピット状)計測表	41	第6表	こも編み石・棒状礫石材組成表	47

写真図版目次

PL1

1. A区東側全景 (南から)
2. A区西側全景 (東から)
3. B区全景 (西から)

PL2

1. A区1号住居跡遺物出土状態 (西から)
2. A区1号住居跡掘り方全景 (西から)
3. A区1号住居跡カマド全景 (西から)

4. A区1号住居跡カマド断面 (西から)

5. A区1号住居跡貯蔵穴断面 (西から)

PL3

1. A区2号住居跡全景 (北西から)

2. A区2号住居跡カマド全景 (北西から)

3. A区2号住居跡カマド断面 (西から)

4. A区2号住居跡貯蔵穴断面 (南から)

5. A区2号住居跡床下土坑断面 (東から)

PL4

1. A区3号住居跡全景 (北から)

2. A区3号住居跡掘り方全景 (南西から)

3. A区3号住居跡掘り方断面 (南西から)

4. A区3号住居跡南西部状況 (北東から)

5. A区3号住居跡遺物出土状態 (北から)

PL5

1. A区2号土坑全景 (東から)

2. A区2号土坑断面 (南から)

3. A区3号土坑全景 (南から)

4. A区3号土坑断面 (南から)

5. A区4号土坑全景 (東から)

6. A区4号土坑断面 (南東から)

7. A区5号土坑全景 (東から)

8. A区5号土坑断面 (西から)

9. A区6号土坑全景 (東から)

10. A区6号土坑断面 (北西から)

11. A区7号土坑全景 (南から)

12. A区7号土坑断面 (南から)

13. A区8号土坑全景 (南西から)

14. A区8号土坑断面 (南西から)

15. A区15号土坑全景 (北から)

PL6

1. A区10号土坑全景 (北から)

2. A区10号土坑断面 (南西から)

3. A区16号土坑全景 (北から)

4. A区16号土坑断面 (北から)

5. A区19号土坑全景 (北から)

6. A区19号土坑断面 (南西から)

7. A区20号土坑全景 (南東から)

8. A区20号土坑断面 (南から)

9. A区1号土坑全景 (南から)

10. A区1号土坑断面 (南から)

11. A区9号土坑全景 (東から)

12. A区9号土坑断面 (西から)

13. A区11号土坑全景 (南から)

14. A区11号土坑断面 (南から)

15. A区12・13号土坑全景 (東から)

PL7

1. A区12号土坑断面 (南から)

2. A区13号土坑断面 (南から)

3. A区14号土坑断面 (北から)

4. A区17号土坑全景 (南西から)

5. A区17号土坑断面 (南から)

6. A区18号土坑全景 (北西から)

7. A区18号土坑断面 (南東から)

8. A区21号土坑全景 (北から)

9. A区22号土坑全景 (北から)

10. A区23号土坑全景 (西から)

11. A区24号土坑全景 (西から)

12. A区25号土坑全景 (西から)

PL8

1. A区1号溝全景 (北西から)

2. A区1号溝A断面 (南東から)

3. A区1号溝B断面 (東から)

4. B区1号住居跡全景 (西から)

PL9

1. B区1号住居跡掘り方全景 (西から)

2. B区1号住居跡断面 (南から)

3. B区1号住居跡カマド全景 (西から)

4. B区1号住居跡カマド断面 (南から)

5. B区1号住居跡カマド掘り方全景 (西から)

6. B区1号住居跡南西部遺物出土状態 (西から)

7. B区2号住居跡全景 (北東から)

8. B区2号住居跡断面 (北東から)

PL10

1. B区3号住居跡全景 (西から)

2. B区3号住居跡掘り方全景 (西から)

3. B区3号住居跡断面 (北から)

4. B区3号住居跡カマド全景 (西から)

5. B区3号住居跡カマド断面 (西から)

PL11

1. B区3号住居跡貯蔵穴断面 (西から)

2. B区3号住居跡ビット1断面 (西から)

- 3. B区6号住居跡全景（北から）
 - 4. B区6号住居跡確認状況（東から）
 - 5. B区4号住居跡遺物出土状態（西から）
- P L 12
- 1. B区4号住居跡掘り方全景（北東から）
 - 2. B区4号住居跡カマド遺物出土状態（北西から）
 - 3. B区4号住居跡カマド断面（北東から）
 - 4. B区4号住居跡カマド掘り方全景（西から）
 - 5. B区5号住居跡全景（西から）
- P L 13
- 1. B区5号住居跡掘り方全景（西から）
 - 2. B区5号住居跡カマド遺物出土状態（西から）
 - 3. B区5号住居跡貯蔵穴全景（西から）
 - 4. B区5号住居跡貯蔵穴断面（西から）
 - 5. B区5号住居跡カマド掘り方全景（西から）
 - 6. B区5号住居跡ビット1断面（北西から）
 - 7. B区7号住居跡全景（西から）
 - 8. B区7号住居跡掘り方全景（南から）
- P L 14
- 1. B区8号住居跡全景（西から）
 - 2. B区8号住居跡カマド全景（西から）
 - 3. B区8号住居跡カマド掘り方断面（西から）
 - 4. B区8号住居跡貯蔵穴遺物出土状態（西から）
 - 5. B区8号住居跡カマド脇遺物出土状態（南から）
- P L 15
- 1. B区8号住居跡貯蔵穴全景（西から）
 - 2. B区8号住居跡掘り方遺物出土状態（西から）
 - 3. B区11号住居跡全景（南から）
 - 4. B区11号住居跡掘り方全景（南から）
 - 5. B区9号住居跡全景（西から）
- P L 16
- 1. B区9号住居跡カマド全景（西から）
 - 2. B区9・10号住居跡断面（西から）
 - 3. B区9号住居跡カマド断面（南から）
 - 4. B区9号住居跡貯蔵穴断面（北から）
 - 5. B区9号住居跡カマド掘り方全景（西から）
 - 6. B区9号住居跡ビット2断面（北東から）
 - 7. B区10号住居跡全景（東から）
 - 8. B区10号住居跡断面（西から）
- P L 17
- 1. B区11号土坑全景（北から）
- 2. B区13号土坑全景（西から）
 - 3. B区17号土坑全景（南から）
 - 4. B区1号土坑全景（西から）
 - 5. B区1号土坑断面（南西から）
 - 6. B区2・9号土坑全景（北から）
 - 7. B区2号土坑断面（南から）
 - 8. B区3号土坑全景（北から）
 - 9. B区3号土坑断面（西から）
 - 10. B区4号土坑全景（北から）
 - 11. B区4号土坑断面（北西から）
 - 12. B区5号土坑全景（南から）
 - 13. B区5号土坑断面（南西から）
 - 14. B区7・10号土坑全景（北から）
 - 15. B区7号土坑断面（東から）
- P L 18
- 1. B区6号土坑断面（北東から）
 - 2. B区8号土坑全景（北から）
 - 3. B区8号土坑断面（東から）
 - 4. B区14号土坑全景（東から）
 - 5. B区14号土坑断面（東から）
 - 6. B区15号土坑全景（東から）
 - 7. B区15号土坑断面（東から）
 - 8. B区遺構外遺物出土状態（北から）
 - 9. A区TP 4断面（南西から）
 - 10. A区TP 5断面（南西から）
 - 11. B区TP 2断面（南西から）
 - 12. A区調査前状況（西から）
 - 13. B区調査前状況（東から）
- P L 19
- A区1・2号住居跡出土遺物
- P L 20
- A区2・3号住居跡、遺構外出土遺物、B区1・2号住居跡出土遺物
- P L 21
- B区3・4・6号住居跡出土遺物
- P L 22
- B区4・5号住居跡出土遺物
- P L 23
- B区8号住居跡出土遺物
- P L 24
- B区9・11号住居跡、8・13号土坑、遺構外出土遺物

I 発掘調査と遺跡の概要

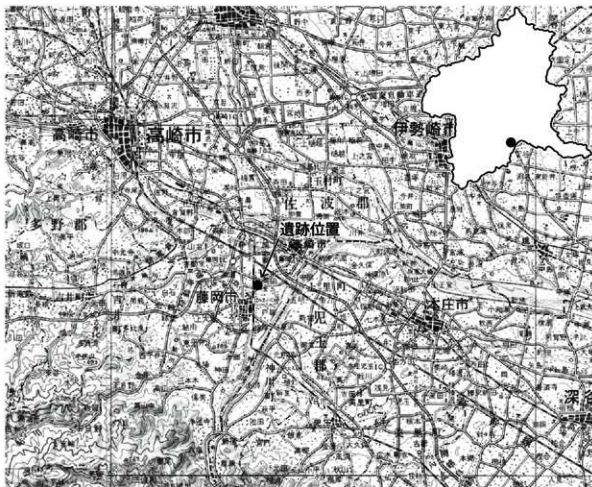
1 発掘調査に至る経過

本遺跡の発掘調査・整理業務は、主要地方道藤岡大胡線の整備を目的とした「地域活力基盤創造事業」に係わっている。

本遺跡は群馬県県土整備部藤岡土木事務所の所管事業である。平成19年3月1日と同9月13日の2回、群馬県教育委員会文化課（現文化財保護課）が試掘調査を行い、住居跡ほかの遺構が確認された。その後調整の結果、同10月9日付けで、群馬県県土整備部藤岡土木事務所と財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が「埋蔵文化財発掘調査委託契約」を締結し、発掘調査・整理業務を行うこととなった。

2 整理業務の経過

平成21年11月30日付けで群馬県県土整備部藤岡土木事務所と財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が締結した「埋蔵文化財整理委託契約書」に基づき、契約履行期間同12月1日～翌22年3月31日で実施することとなり、整理期間を平成21年12月1日～翌22年2月28日と定めて、整理業務を実施した。

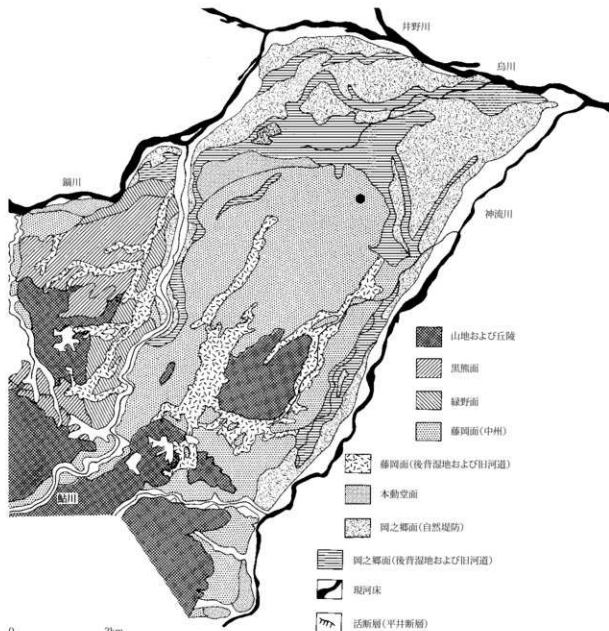


第1図 遺跡位置図(国土地理院1/20万地形図「長野」「宇都宮」使用)

3 遺跡の立地と周辺遺跡

(1)遺跡の立地

本遺跡が所在する藤岡市は、群馬県の南部に位置し、南を流れる神流川を境に埼玉県と接している。藤岡市下栗須は、藤岡市街地の東端に位置する。藤岡市都市計画では住居専用地域にあり、官公庁・学校などが集中する地域である。藤岡市は養蚕業や窯業の町として発展してきたが、近年は交通網の整備によって交通の要衝となっている。本遺跡北方約1.6kmには上信越自動車道藤岡インターチェンジがあり、東方約1.5kmの藤岡ジャンクションで関越自動車道新湯線に接続している。また、西方約1kmにはJ R八高線群馬藤岡駅があり、東方約700mにはJ R上越新幹線が通過している。



第2図 遺跡周辺の地形 (『群馬県史』通史編1より作図)

本遺跡は、東南に緩やかに傾斜する藤岡台地の東端に位置し、標高は約76.5mである。藤岡台地は神流川と鮎川によって形成された扇状地が、その後開析されてきている。また、藤岡台地の離水は、約1.5万年前ころに行われたと考えられている。本遺跡の東側には、温井川の支流中川の侵食によってできた軽微な低地が、台地縁辺に沿って南北に走向し、その東に神流川によって形成された自然堤防が広がっている。

(2)周辺の遺跡

旧石器時代では、田島遺跡（8）が尖頭器を出土しており、続く縄文時代草創期まで継続して、爪形文土器や円盤形石器も出土している。株木遺跡（15）では槍先形尖頭器2点が出土している。縄文時代では大集落はなく、株木遺跡で前期後半の住居跡1軒、中期後半の住居跡3軒が調査されている。また、大道南ⅡB遺跡（4）で前期後半の住居跡1軒、田島遺跡で中期後半の住居跡2軒がある。

弥生時代では、前期の再葬墓で知られる沖Ⅱ遺跡（22）があるが、近在では五町田遺跡（13）で中期初頭の壺形土器が出土している。

古墳時代になると、比較的大きな集落が出現する。株木B遺跡（6）は調査面積が広いため散在するが、住居跡24軒が見つかった。また、田島遺跡で住居跡5軒、袖久保遺跡（11）で住居跡4軒、袖久保B遺跡（12）で住居跡3軒がある。

古墳については、下戸塚から下栗須にかけて戸塚古墳群がある。『上毛古墳総覧』では76基が記載されるが、昭和59年の藤岡市教委による詳細分布調査（文献6）で37基が確認されている。この古墳群は、5～7世紀に営まれたと見られる。稲荷塚古墳（5）では、ねじり文鏡や滑石製模造品が収拾されており、5世紀前半の築造で古墳群では最古式である。株木B遺跡もこの古墳群に含まれ古墳5基が調査されるが、著しく削平されていた。同じく、大道南ⅡD遺跡（3）では古墳1基が調査され、墳輪を作わないことから、終末期古墳と位置づけられている。

奈良・平安時代の集落では、株木B遺跡で住居跡75軒が見つかり、このほか時期不明が40軒あり、大集落を形成している。なお、集落は調査区南側に集中しており、本遺跡に近い北側300m程では、古墳5基が見つかったにすぎない。また、円浄遺跡（7）で見つかった住居跡3軒は、いずれも羽釜を持つ時期である。袖久保遺跡でも同時期の住居跡1軒が見つかった。

周辺で特筆されるものに瓦塔の分布がある。これは前掲の藤岡市教委による詳細分布調査で採集されたものであり、図示以外西側に若干広がりがある。周辺では古代寺院の存在は確認されていない。

中世では、文永8年（1271）に佐渡へ向かう途上にある日蓮が立ち寄った長谷川長源僧敷から転じた長源寺に関連する下栗須祖師堂（10）がある。長谷川氏の墓地には、文和4年（1355）の銘を持つ無縫塔が残っている。長源寺は近世初期藤岡領主芦田氏が室の菩提寺として藤岡に移し天竜寺と改称して現在に至っている。天竜寺には寺宝として、日蓮の法華経要文断片が保管され、ほかに直筆文書も多数あったが消失したという（文献20）。下栗須祖師堂周辺には中世の古道も想定され、北側に隣接して神流地区2号居館址（9）も存在している。ただし、この居館址に隣接する田島遺跡では同時期の遺構は見つかっていない。また、北方に近在する五町田遺跡では在地産の内耳土器や板碑を伴う溝や井戸、土壇墓が見つかった。

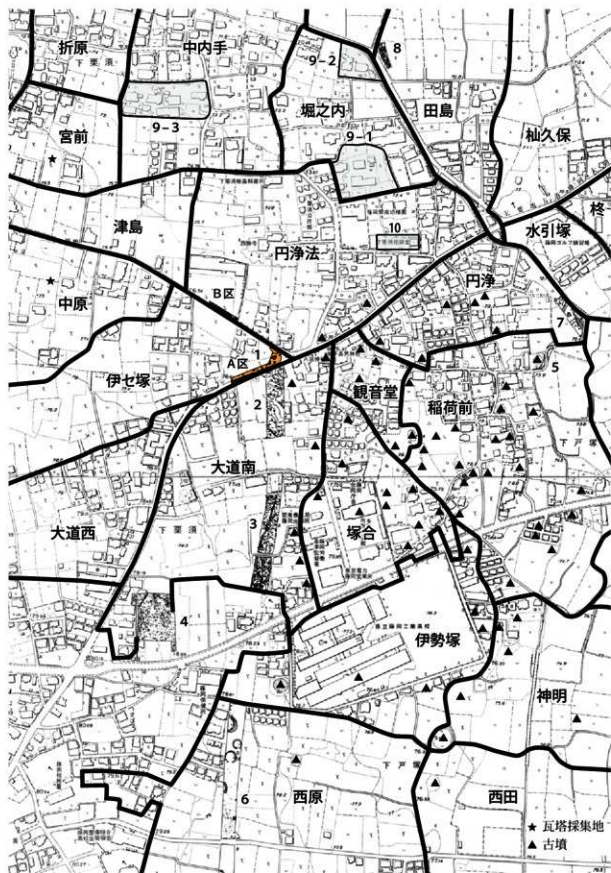
本遺跡周辺では、やや多く中世遺構が見つかった。大道南B遺跡（2）では15世紀後半頃の土壇墓が見つかり、ほかに形態の類似する土坑が40基ほど点在している。その南に位置する大道南ⅡD遺跡（3）では、在地産の鉢（掲載図から判断）が出土し、浅間B軽石層を踏み固めた東西方向の遺状遺構が見つかった。また、同じくビット493基も埋没土に浅間B軽石を多く含むことが観察されており、建物群の存在も想定され

1 発掘調査と遺跡の概要

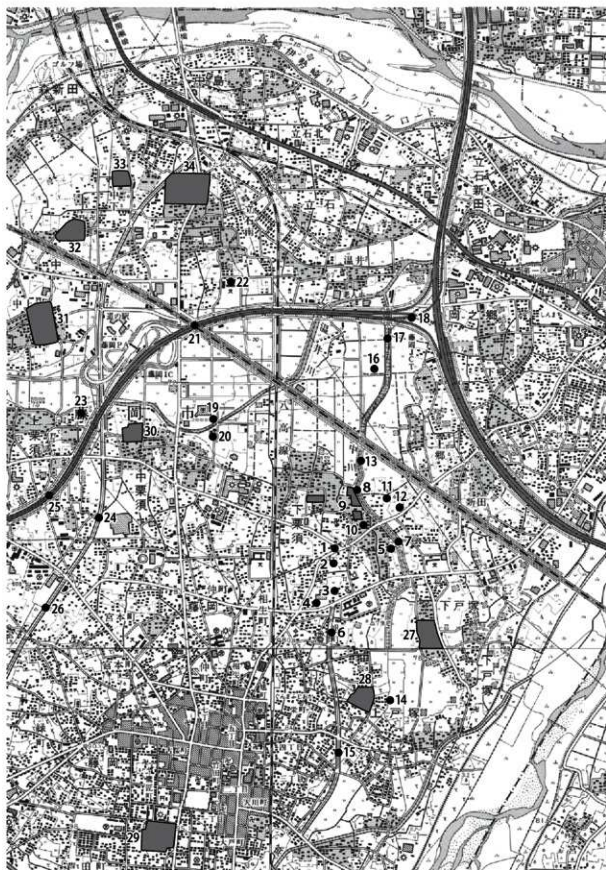
る。西側で調査された大道南ⅡB遺跡(4)は、約1500基のピットが見つかり、埋没土に浅間B軽石を多く含むことが報告されている。

第1表 周辺遺跡一覧

番号	遺跡名	所在地	遺跡の概要							文献
1	下栗須伊勢塚遺跡	下栗須	本遺跡							
2	大道南B遺跡	下栗須	中近世土坑43基。							1
3	大道南ⅡD遺跡	下栗須	古墳1基、中近世道1条、ピット493基。							1
4	大道南ⅡB遺跡	下栗須	縄文住居1軒、奈良・平安期立柱建物1棟、土坑13基、ピット約1500基(B混多)。							2
5	稲荷通り遺跡	下栗須	稲荷塚古墳を含む古墳4基の一部ほか。							3
6	株木B遺跡	上戸塚	縄文住居4軒、古墳5基、古墳～平安住居137軒など。							4
7	円浄遺跡	下栗須	奈良・平安住居3軒など。							5
8	田島遺跡	下栗須	旧石器～縄文草創期遺物。縄文中期住居2軒、古墳住居5軒など。							5
9	神流地区2号居館址	下栗須	上層や堀を廻らす層数が複数ある。字中内手、字堀之内。							6
10	下栗須祖師堂	下栗須	文永8年(1271)日蓮が佐渡配流の折、立ち寄ったとされる長瀬長教跡という。							7
番号	遺跡名	所在地	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世	近世	文献
11	袖久保遺跡	下栗須				○	住居4	○	○	8
12	袖久保B遺跡	下栗須				住居3	住居7			9
13	五町田遺跡	下栗須			○	○	○	土坑13、溝12		5
14	上戸塚正上寺遺跡	上戸塚		○	○	住居2・古墳1		掘立柱建物1、ピット429		10
15	株木遺跡	上戸塚	○	住居4			住居26			11
16	岡之台Ⅱ遺跡	岡之郷		○			住居66			5
17	加例皆戸遺跡	岡之郷		○				○		5
18	温井遺跡	岡之郷				住居37				12
19	谷地遺跡	中栗須		○		○	○			13
20	中栗須滝川Ⅱ遺跡	中栗須		○			○			14
21	森遺跡	森		○	○		住居14			15
22	沖Ⅱ遺跡	立石			土坑80	○		○		16
23	薬師裏Ⅱ遺跡	上栗須			住居2					17
24	上栗須遺跡	上栗須		○		古墳8、掘立柱建物20				18
25	上栗須寺前遺跡群	上栗須			住居2	古墳11	住居178			19
26	下大塚遺跡	下大塚					住居10			18
27	戸塚城	上戸塚	全体規模東西130m、南北180m。内郭一辺50m規模。戸塚氏など地侍の寄居という。							20
28	神流地区3号居館址	上戸塚	谷を利用して堀を廻らす。							6
29	芦田城	藤岡	一辺200m規模の単郭平城。天正18年芦田氏が築城し、藤岡藩改易後廃城。							20
30	山口屋敷	中栗須	山口外記の屋敷という。							21
31	中城	中	全体規模東西170m、南北270m。内郭一辺70m規模。小野里氏など地侍の寄居という。							20
32	森西館	森	全体規模東西160m、南北180m。内郭一辺50～70m規模。小林氏関連という。							20
33	森の内出	森	一辺170m規模の方形区画。字内手。							20
34	森東城	森	全体規模東西250m、南北140～230m。内郭一辺50m規模。小林氏関連という。							20



第3図 道跡調査区及び周辺道跡(1:5,000)



第4図 周辺遺跡（国土地理院1:25,000「高崎」使用）

参考文献

- 1「大道南ⅡD道跡 大道南B道跡」群馬県藤岡市教育委員会2008年 2「大道南ⅡB道跡」群馬県藤岡市教育委員会2001年 3「福荷通り道跡」群馬県藤岡市教育委員会1992年 4「株木B道跡」群馬県藤岡市教育委員会1991年 5「B6中道道跡 B7加賀戸道跡 B8五町田道跡 B9田島道跡 B10内浄道跡」群馬県藤岡市教育委員会1987年 6「神流地区道構群(IV)-藤岡市道跡詳細分布調査報告書-」藤岡市教育委員会1985年 7「藤岡町史」群馬県藤岡市1957年 8「仙久保道跡」群馬県藤岡市教育委員会1999年 9「仙久保B道跡」群馬県藤岡市教育委員会2003年 10「上戸塚正上寺道跡」群馬県教委委員会・財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1993年 11「株木道跡」群馬県藤岡市教育委員会1984年 12「温井道跡」群馬県教委委員会・財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1981年 13「C7神明北道跡 C8谷地道跡」群馬県藤岡市教育委員会1988年 14「中栗須川Ⅱ道跡」群馬県藤岡市教育委員会1998・1999年 15「森・中Ⅰ・中Ⅱ道跡」財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1983年 16「C11沖Ⅱ道跡」群馬県藤岡市教育委員会1986年 17「C18屋敷裏B道跡 小野地区水田址道跡」群馬県藤岡市教育委員会1992年 18「上栗須道跡 下大塚道跡 中大塚道跡」財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1989年 19「上栗須寺前道跡群(1)～(四)」財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1993～1996年 20「藤岡市史」資料編原稿・古代・中世 藤岡市史編さん委員会1993年 21「群馬県の中世城跡群」群馬県教育委員会1988年

4 発掘調査の方法と経過

(1)調査区の設定

発掘調査に際しては、任意の調査区2か所を設け、南方の交差点側をA区、北側をB区と呼称した。なお、事業の性格上広範な調査が見込まれないため、グリッドの設定は行わず、国家座標値をそのまま使用した。

(2)調査の方法

本遺跡は藤岡市街地の東端に位置し、商店や住宅が立ち並び、B区は商店の駐車場となっていた。A区は残土置き場を確保するため、調査区を東西に分け、南側を先行して調査を行った。調査に際しては、安全柵を設置し、作業の安全確保に努めた。

表土掘削については、地表下の土層攪乱が著しく、加えて指標となる火山噴出物の純堆積層も認められなかったため、ローム漸移層を遺構確認面とした。層厚約50cmをバックホーによる表土掘削したのち、人力による遺構検出作業を行った。この結果、古墳時代以降の集落が良好な状態で確認された。また、調査区全域でローム層が良好に堆積していたため、A区では2×5mのトレンチ5か所(第6図)、B区では1.3×2mと1.5m×5mのトレンチ各1か所を設定し、旧石器時代の試掘調査を行ったが、遺構物とも発見されなかった。

遺構調査に際しては、埋没土層の確認用ベルトを任意に設置し、ジョレン・移植ゴテほかにより掘削を行った。遺構名称は、調査区ごとの通番とし、調査の進行にあわせて適宜付番した。

遺構の記録は、実測図作成と写真撮影により行った。遺構の平面測量は、デジタル平板測量を適宜実施した。縮尺は遺構の性格に合わせ、1/10、1/20、1/40、1/100を選択した。断面測量は、個別に水系により基準標高を設置し、コンベックス、スタッフほかを使用して、手書きによる図化を行った。

遺構写真は、モノクロ写真を6×7版フィルム撮影し、カラー写真はデジタルカメラを使用して、ハードディスク及びDVDによるデータの記録保存を行った。また、調査区の全体写真など、調査状況により高所作業車を使用して遺跡を俯瞰する写真撮影を行った。

1 発掘調査と遺跡の概要

(3)調査の経過

調査日誌抄録

平成19年（2007）

- 11月5日 A区南側表土掘削開始。
- 11月7日 A区南側遺構確認作業、1・2号住居跡調査着手。
- 11月8日 B区表土掘削開始。
- 11月12日 B区遺構確認作業、1・2号住居跡調査着手。
- 11月16日 A区南側高所作業車による全体写真撮影。B区3～6号住居跡調査着手。
- 11月20日 A区南側旧石器時代トレンチ調査着手。
- 11月28日 B区8・9号住居跡調査着手。
- 11月29日 A区南側調査終了。A区北側表土掘削開始。B区旧石器時代トレンチ調査着手。
- 12月3日 A区北側遺構確認作業、1号溝調査着手。
- 12月4日 A区北側3号住居跡調査着手。
- 12月6日 A区北側・B区高所作業車による全体写真撮影。
- 12月10日 A区北側旧石器時代トレンチ調査着手。
- 12月11日 B区調査終了。
- 12月19日 A区北側調査終了。

(4)整理作業の経過

整理作業は、平成21年12月1日から翌22年2月28日まで実施し、引き続き刊行作業を行った。

遺構図面は調査時作成の図面を元に修正作業・計測作業を行い、デジタルトレース、版下作成を行った。

出土遺物は、出土遺構・地点ごとに接合作業を行った後、掲載遺物を選定した。次いで、デジタル撮影による遺物写真撮影を行ったのち、遺物実測を行った。実測に際しては、機械実測、デジタル写真実測により素図を作成して精図し、引き続いてトレース図を作成した。

遺物トレース図はスキャニング作業を行ってデジタル化し、版下作成を行った。

掲載資料は、台帳作成後収納作業を行った。

II 発掘調査の記録

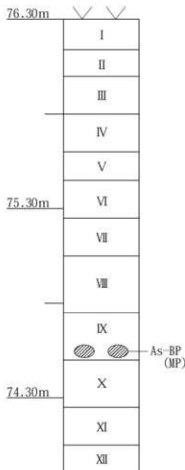
I 遺跡の概要

(1)基本土層

本遺跡は、A区とB区が県道を挟んで南北にやや離れるものの約100mほどの距離に収まり、As-MP降下以降安定した地形環境にある。このため、A区の土層を基準に基本土層を作成した。なお、含まれるテフラの同定については、43頁以下の自然科学分析に依拠している。

基本土層

- I 褐灰色土 表土
- II 褐灰色土 粗粒白色軽石をやや多く含む。
- III 黒褐色土 細粒白色軽石わずか含む。
- IV 灰褐色～褐色土 黄褐色土をモザイク状に含む。ローム漸移層。
- V 明黄褐色粘質土 As-YPを少量含む。ハードローム。
- VI 明黄褐色土 黄色細粒軽石・灰白色粗粒火山灰（大窪沢テフラ群）を含む。
- VII 褐色粘質土 黄褐色土ブロックを多く含む。
- VIII にぶい黄褐色土 風化した黄色細粒軽石（As-BPグループ）を含む。
- IX にぶい褐色土 As-BP (MP) 粗粒黄褐色軽石主体。石質岩片含む。
- X 極暗褐色粘土 腐植に富む。固く締まる。
- XI 暗褐色粘質土 非常に固く締まる。
- XII にぶい褐色粘質土 砂質土を含む。



第5図 基本土層図

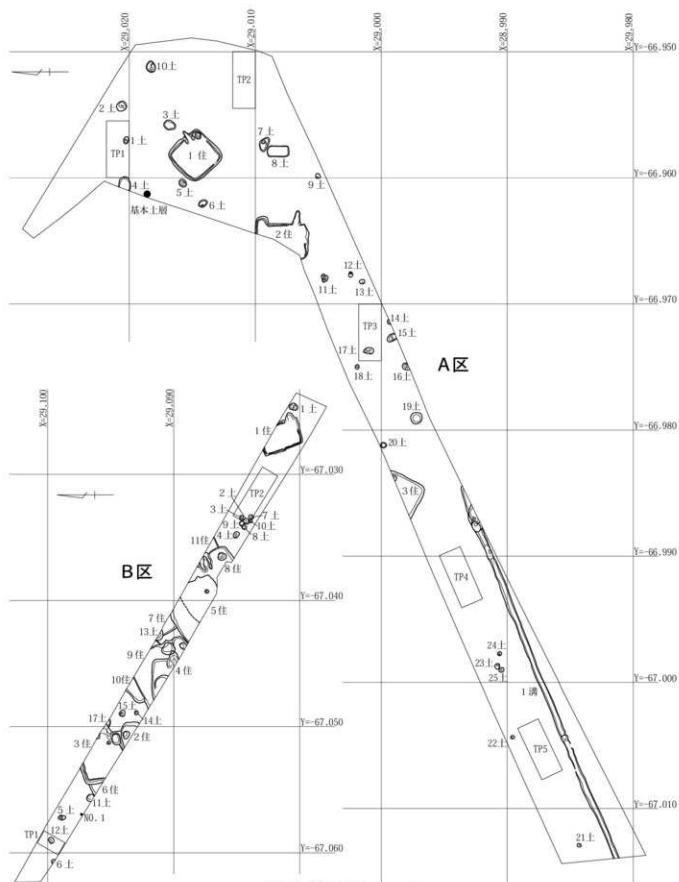
(2)遺構の概要

本遺跡は古墳時代から奈良・平安時代にわたる集落遺跡であり、A区・B区ともにほぼ同様な傾向を持っている。A区は遺構がやや散漫であり、竪穴住居跡は古墳時代2軒、平安時代1軒が調査された。土坑は25基とやや多いが、半数の13基はビット状の形態である。時期は不明確である。また、1号溝は埋没土から中世以降と考えられており、土坑も一部関連が想定される。

B区は調査区幅が狭く、調査面積も少ないが、遺構の重複が激しい。竪穴住居跡は古墳時代が推定も含めて5軒、奈良・平安時代が6軒で、都合11軒見つっている。ただし、重複が激しいことに加え、調査区幅が狭いこともあって、住居跡全体を露呈できたものはなかった。

なお、縄文時代の遺物が若干出土したが、遺構は見つかっていない。また、ロームが良好に堆積することから、試掘トレンチ調査を行い旧石器時代遺物の発見を試みたが、遺構・遺物とも発見できなかった。

II 発掘調査の記録



第6図 遺跡全体図 (1 : 300)

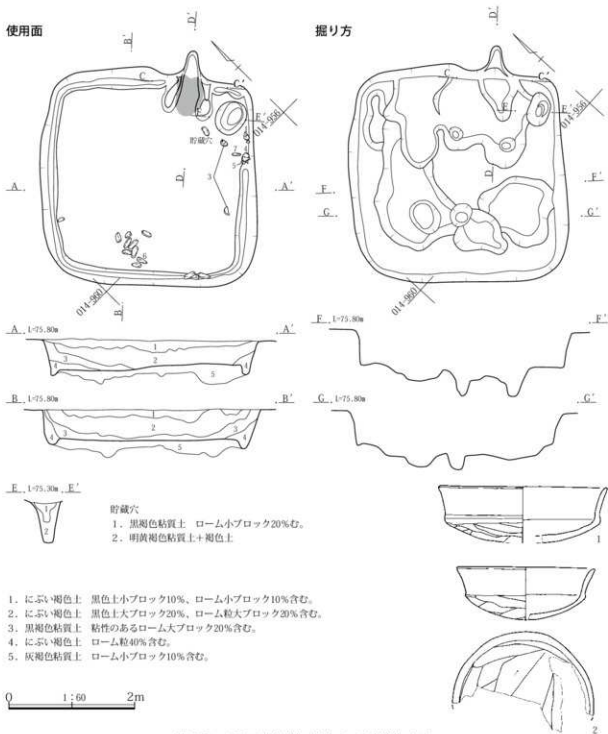
2 A区の遺構と遺物

(1)竪穴住居跡

1号住居跡 (第7・8図、PL2・19)

位置 014-968 重複 なし 形態 正方形 主軸方位 N-46°-E

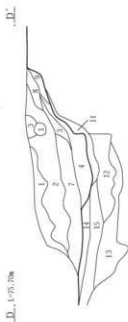
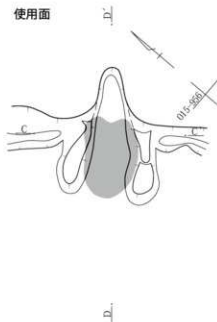
規模 南北3.5m、東西3.45m カマド 東辺の中央南寄りに設置され、燃焼部は住居内に位置する。主軸方



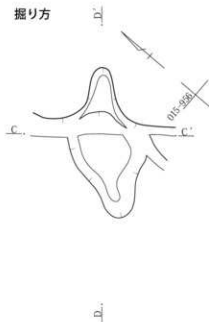
第7図 A区1号住居跡・掘り方・出土遺物(1)

II 発掘調査の記録

使用面



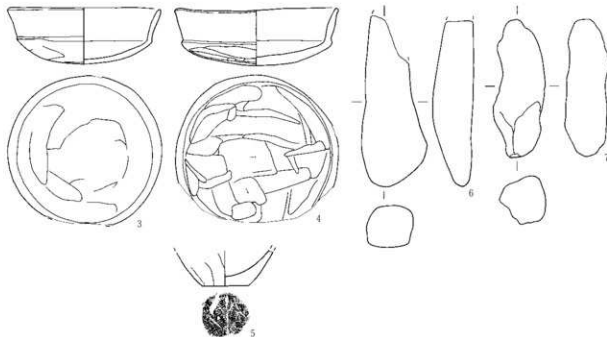
掘り方



C' カマド

1. 黒褐色土 ローム粒10%、焼土粒10%含む。
2. にぶい黄橙土 黒褐色土小ブロック10% 焼土粒5%含む。
3. にぶい黄色粘質土 焼土粒10%含む。
4. 明赤褐色焼土 ローム20%含む。
5. にぶい黄橙土 焼土粒10%含む。
6. にぶい黄橙土 焼土小ブロック10%含む。
7. にぶい褐色土 ローム大ブロック40%含む。
8. 明黄褐色粘質土 焼土粒20%含む。

9. 明黄褐色粘質土
10. 明赤褐色焼土ブロック+黄灰色土
11. 黄灰色土
12. 黒褐色土 粘性のあるローム大ブロック 20%含む。固くしまる。
13. 黒褐色土+黄灰色土
14. 褐色土 黒色土に焼土粒5%含む。しまる。
15. 黄灰色土 粘性のあるローム大ブロック 40%含む。



第8図 A区1号住居跡カマド・出土遺物(2)

位はN-52°-E。規模は、焚口～煙道が1.13m、袖焚口幅が0.55mである。火床面から煙道部へは、急激に斜めに立ち上がる。袖構築材には粘性のあるロームを使用する。出土遺物は少ない。掘り方規模は、主軸方向1.21m、幅0.6mである。

柱穴 確認できなかった。**内部施設** カマドの右手、住居の北東隅に貯蔵穴を設ける。形態は平面楕円形で、断面はV字形に近く細長い。規模は長径55cm短径46cm深さ62cmである。周溝はカマド左脇から西辺、南辺をめぐり、東辺中央付近まで連続する。規模は幅35～20cm、深さ10cmである。

床 硬化面はない。掘り方から約12cmほど粘性の強いローム混土で埋める。

掘り方 中央部を掘り残し気味に掘り下げる。

埋没状況 壁際から自然埋没するが、埋没土中位以上はブロック土を多く含み、人為的な埋没を思わせる。

遺物 貯蔵穴前の東壁際床面で土師器杯3点が出土する。南東隅から南壁際中央西寄り床面では、こも編み石が14個出土し、状況から乱雑に置かれていたものと見られる。

時期 出土遺物から6世紀末～7世紀初めに比定される。

2号住居跡 (第9～12図、PL12・19・20)

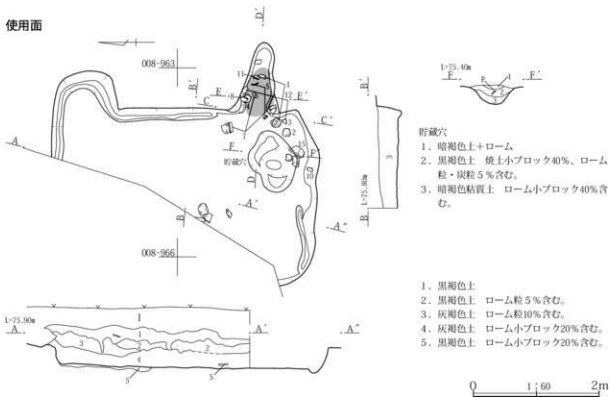
位置 008-966 重複 なし

形態 西側1/3が調査区域外となり確定できないが、南北に長い長方形と推測される。北東隅が張り出す。

主軸方位 N-90° **規模** 南北4.22m、東西2.8m

カマド 南東隅近くに設置される。燃烧部は住居壁面より外側に位置する。主軸方位はN-80°-Wである。規模は、焚口～煙道が1.82m、袖焚口幅が0.7mである。火床面は床面とほぼ等しい。焚口両脇に立石が残るが天井部はない。火床面から煙道部へは、緩やかに立ち上がり、燃烧部の中央煙道部寄りに支脚が立置されている。

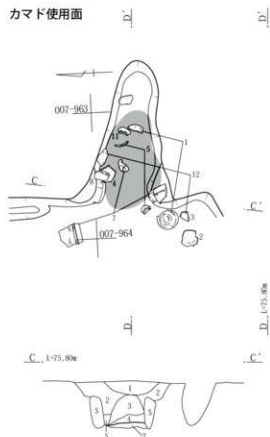
使用面



第9図 A区2号住居跡

II 発掘調査の記録

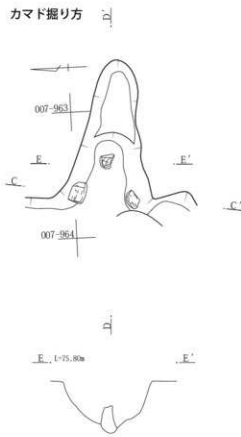
カマド使用面



カマド

1. 灰褐色土 ローム小ブロック10%、焼土粒5%含む。
2. 黒褐色土 ローム小ブロック20%含む。
3. にぶい黄色粘質土 黒褐色土20%含む。
4. 明赤褐色焼土 ローム小ブロック10%含む。
5. 黒褐色土 ローム大ブロック10%、焼土小ブロック20%含む。

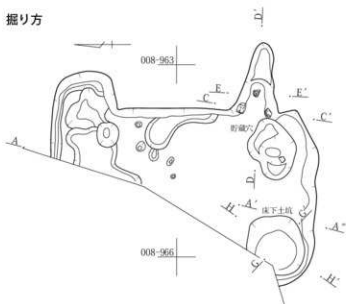
カマド掘り方



6. 灰褐色土 焼土小ブロック10%含む。
7. 灰黄褐色土 焼土粒5%、ローム粒5%、灰5%含む。
8. 黒褐色土 焼土大ブロック20%含む、しるまる。
9. 明黄褐色粘土

0 1:30 1m

掘り方

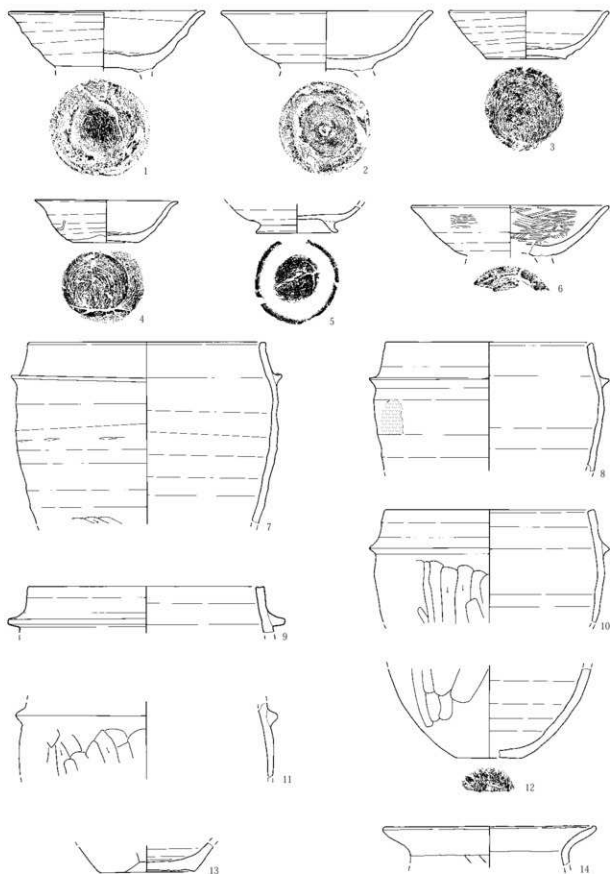


床下土坑

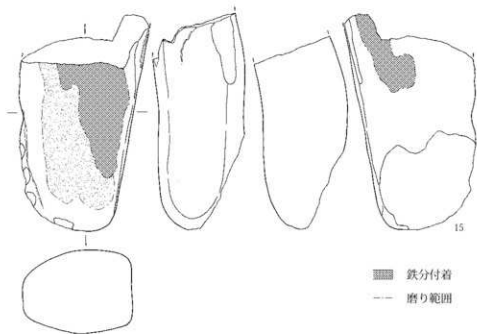
1. 暗褐色土+ローム大ブロック
2. 黒褐色土 ローム大ブロック40%含む。

0 1:60 2m

第10図 A区2号住居跡カマド・掘り方



第11図 A区2号住居跡出土遺物(1)



第12図 A区2号住居跡出土遺物(2)

る。貯蔵穴との位置関係から見て、袖は張り出していない可能性が高い。燃焼部内と前面床面に羽釜の大片が2個体出土しており、カマドにかけられていたものと考えられる。掘り方規模は、主軸方向1.22m、幅0.8mである。**柱穴** 確認できなかった。

床 カマド前面でロームによる貼り床を一部確認。掘り方から約9cmほど粘性の強いローム混土で埋める。

内部施設 カマドの右袖前面で住居の南東隅に貯蔵穴を設ける。形態は平面不整形円形で、断面はU字形で浅い。遺物は混入程度であり、使用状態を示すものはない。規模は長径100cm短径74cm深さ30cmである。周溝は軽微ながら、カマド左脇から北東隅の張り出しをめぐり北辺へ続き、調査区域外を経て南西隅から南東隅に設けられる。規模は幅37~18cm、深さ6cmである。

掘り方 床下土坑は南西隅に位置し、隅丸方形を呈する。規模は長径95cm短径92cm深さ33cmである。掘り方はあまり顕著でなく、ほかに北壁際や北東部張り出し付近に土坑状の落ち込みが見られる。

埋没状況 埋没下位から小ブロック土を多く含んでおり、人為的な埋没を思わせる。

遺物 出土遺物はカマド内部が多い。カマドに近接して貯蔵穴が設けられるが、その覆土上の床面で逆位の須恵器杯1点と正位の杯1点が出土しており、周辺に置かれていたものであろう。貯蔵穴西床面には巨礫が出土し、うち1点は非常に良く磨られている。鉄分の付着も見られることから、何らかの鉄器を磨いた可能性がある。また、中央部調査区際にも巨礫が出土している。

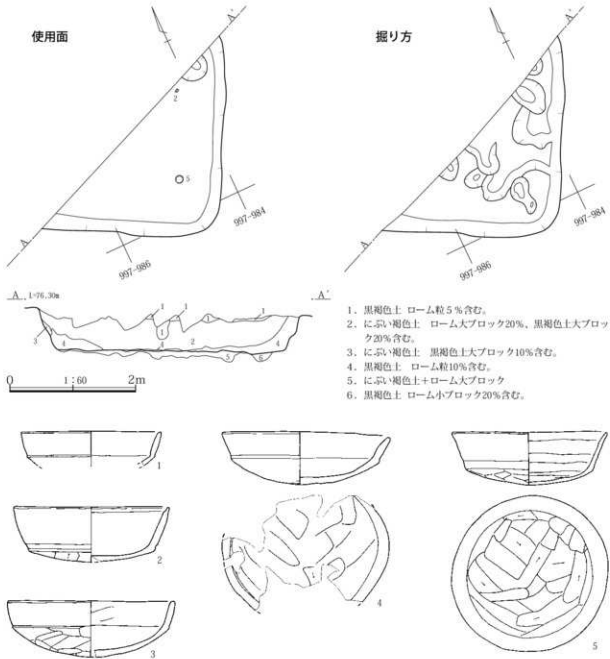
時期 出土遺物から10世紀後半に比定される。

3号住居跡(第13図、PL4・20)

位置 998-986 **重複** なし **形態** 北側半分以上が調査区域外となり不明。

主軸方位 N-28°-E **規模** 東辺3.22m、南辺2.84m

カマド 未確認。調査区域外と見られる。**柱穴** 確認できなかった。



第13図 A区3号住居跡・出土遺物

床 硬化面はない。掘り方から約9cmほどローム混土で埋める。

内部施設 なし **掘り方** 全体に掘り込むが、床下土坑などは存在しない。

埋没状況 壁際から埋没した後、大ブロック土を多く含んで埋没しており、人為的な埋没と思われる。

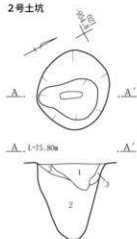
遺物 概して少ない。南東隅近く床面に伏せられた状態で土師器杯が出土している。

時期 出土遺物から7世紀前半に比定される。

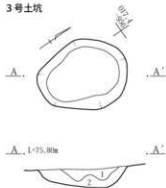
II 発掘調査の記録

(2)土坑

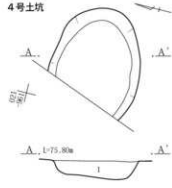
2号土坑



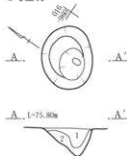
3号土坑



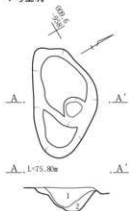
4号土坑



5号土坑



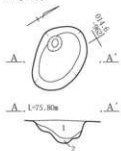
7号土坑



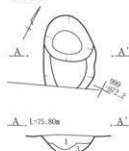
8号土坑



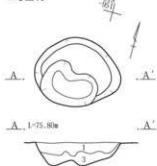
6号土坑



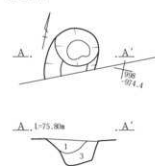
15号土坑



10号土坑



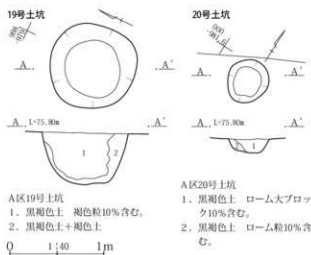
16号土坑



- A区2~8・10・15・16号土坑
 1. 黒褐色土 ローム粒5%含む。
 2. 黒褐色土 ローム大ブロック10%含む。
 3. 黒褐色土 ローム粒10%含む。

0 1:40 1m

第14図 A区2~8・10・15・16号土坑



第15図 A区19・20号土坑

は出土しなかった。

5号土坑 (第14図、PL 5) 位置015-960。長円形。壁は斜めに立ち上がる。底面は丸みを持つが、一部強く凹む。規模は長径66cm短径54cm深さ30cmである。遺物は出土しなかった。

6号土坑 (第14図、PL 5) 位置013-961。楕円形。壁は斜めに立ち上がる。底面は凸凹する。規模は長径75cm短径52cm深さ23cmである。遺物は出土しなかった。

7号土坑 (第14図、PL 5) 位置008-956。不整形。壁は斜めに立ち上がる。底面は凸凹する。規模は長径116cm短径67cm深さ25cmである。遺物は出土しなかった。

8号土坑 (第14図、PL 5) 位置007-957。整った隅丸長方形。壁は垂直ぎみに立ち上がる。底面は平坦。規模は長径175cm短径85cm深さ14cmである。遺物はこも編み石を思わせる川原石1点が出土した。

10号土坑 (第14図、PL 6) 位置018-951。ほぼ円形。壁は斜めに立ち上がる。底面は凸凹する。規模は長径93cm短径74cm深さ24cmである。遺物は出土しなかった。

15号土坑 (第14図、PL 5) 位置998-972。一部が南側調査区域外となるが、ほぼ楕円形。壁は斜めに立ち上がる。底面は丸みを持つ。規模は長径77cm短径54cm深さ21cmである。遺物は出土しなかった。

16号土坑 (第14図、PL 6) 位置997-974。約1/3が南側調査区域外となるが、ほぼ楕円形。壁は斜めに立ち上がる。底面は部分的に凹む。規模は長径63cm以上短径52cm深さ27cmである。遺物は出土しなかった。

19号土坑 (第15図、PL 6) 位置997-978。円形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦。規模は長径92cm短径91cm深さ55cmである。遺物は出土しなかった。

20号土坑 (第15図、PL 6) 位置999-981。ほぼ円形。壁は斜めに立ち上がる。底面はほぼ平坦。規模は長径49cm短径44cm深さ15cmである。遺物は出土しなかった。

2号土坑 (第14図、PL 5)

位置020-953。ほぼ円形。壁は斜めに立ち上がる。底面は丸みを持つ。規模は長径84cm短径75cm深さ81cmである。遺物は出土しなかった。

3号土坑 (第14図、PL 5)

位置016-955。不整形円形。壁は斜めに立ち上がる。底面は丸みを持つ。規模は長径96cm短径74m深さ20cmである。遺物は出土しなかった。

4号土坑 (第14図、PL 5)

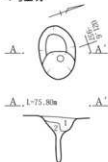
位置019-960。西1/3は調査区域外となるが、推定楕円形。壁は斜めに立ち上がる。底面はほぼ平坦。規模は長径97以上cm短径96cm深さ20cmである。遺物

第2表 A区土坑(ピット状)計測表 単位: cm

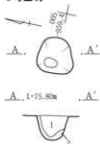
No	位置	長径	短径	深さ
1	021-956	57	38	48
9	004-959	39	38	26
11	004-967	64	50	39
12	002-967	45	31	50
13	001-968	44	34	39
14	999-971	44	20以上	45
17	000-973	80	50	38
18	001-974	36	32	38
21	984-012	34	29	46
22	989-004	32	27	44
23	990-998	45	36	43
24	990-997	32	32	50
25	990-998	39	37	27

II 発掘調査の記録

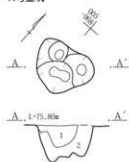
1号土坑



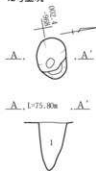
9号土坑



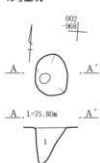
11号土坑



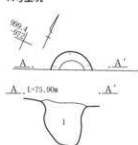
12号土坑



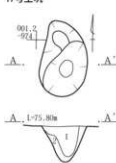
13号土坑



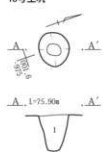
14号土坑



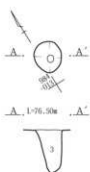
17号土坑



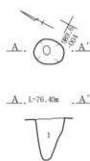
18号土坑



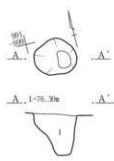
21号土坑



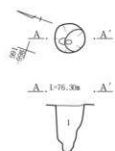
22号土坑



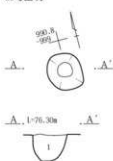
23号土坑



24号土坑



25号土坑



A区 1・9・11～14・17・18・21～25号土坑

1. 黒褐色土 ローム粒5%含む。
2. 黒褐色土 ローム大ブロック10%含む。
3. 褐灰色土 ローム粒5%含む。

0 1:40 1m

第16図 A区 1・9・11～14・17・18・21～25号土坑

2 A区の遺構と遺物(3)土坑(4)溝(5)遺構外遺物

(3)土坑(ピット状)(第16図、PL6・7)

ここでは、ピット状の形態を呈する土坑を扱う。時期は出土遺物がなく確定できない。埋没土は近似するが、時期を推定する手がかりとなるテフラの混入もない。位置については、11~14、17、18号土坑がやや半円形に分布する。また、21~25号土坑は近くに1号溝が走向していることも考慮される。



第17図 A区1号溝

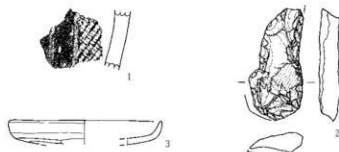
(4)溝

1号溝(第17図、PL8)

位置981~993-984~013。平面形態はほぼ直線状で東西端とも調査区域外に続くが、東端は南に折れ始めている印象がある。断面はU字形。底面は丸みを持ち、やや凸凹する。走向方位はN-66°-E。規模は長さ32.04m幅66cm深さ33cmである。遺物は古墳時代の杯1点が出土するが混入と見られ、時期は調査時の所見により中世以降に比定される。

(5)遺構外遺物(第18図・PL20)

縄文時代遺物は少なく、土器片は縄文時代中期後半の深鉢胴部片(1)のみである。石器は打製石斧(2)のほか、1号住居跡で剥片1点(未掲載)が出土している。



第18図 A区遺構外出土遺物

3 B区の遺構と遺物

(1) 竪穴住居跡

1号住居跡 (第19・20図、P.L.9・20)

位置 082-028 重複 なし **形態** 北東隅部が調査区域外となるが、ほぼ長方形。

主軸方位 N-71°-E **規模** 南北3.40m、東西2.15m

カマド 南東隅近くに設置され、燃焼部は住居内に位置する。主軸方位はN-71°-E。使用面の規模は不明。煙道側壁面はほぼ垂直に立ち上がる。遺物は左袖側で甕1個体が出土しており、カマドで使用されていた可能性が高い。掘り方規模は、主軸方向1.14m、幅0.97mである。

柱穴 1基礎認められる。柱穴の規模(長径・短径・深さcm) P1:27、24、28

内部施設 周溝はカマド左脇から北側調査区域外へ延びた後、北辺をめぐるかと推定され、北西隅付近から西辺を経て、南辺はカマド手前まで連続する。規模は幅42~14cm、深さ12cmである。

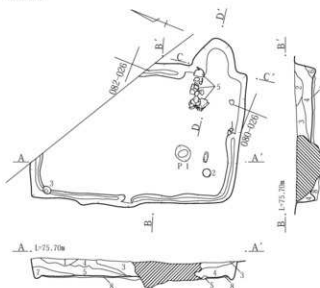
床 固くしまる。掘り方から約5cmほどローム混土で埋める。

掘り方 全体を平坦に掘り下げる。埋没状況 壁際から徐々に埋没しており、自然埋没と見られる。

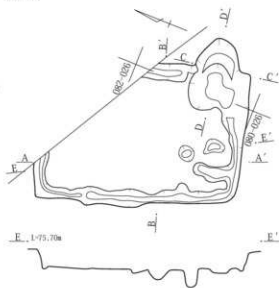
遺物 やや少ない。カマド周辺以外では、南西隅、北西隅近くで完形に近い杯が出土している。

時期 出土遺物から8世紀半ばに比定される。

使用面



掘り方



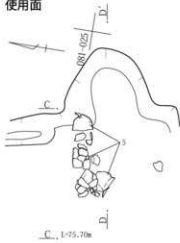
1. 黒褐色土 ローム粒5%含む。
2. 黒褐色土 ローム小ブロック10%、ローム粒10%含む。
3. 褐灰色土 ローム大ブロック40%含む。
4. 黒褐色土 ローム大ブロック10%含む。

5. 黒褐色土 ローム大ブロック40%含む。
6. 黒褐色土+ローム大ブロック
7. にぶい黄褐色土 ローム粒10%含む。
8. 灰褐色土+ローム 固くしまる。

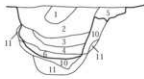
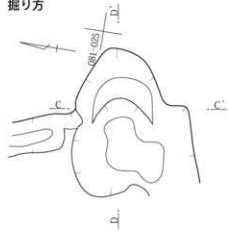
0 1:60 2m

第19図 B区1号住居跡

使用面



掘り方

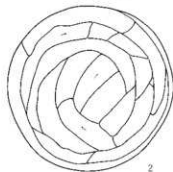
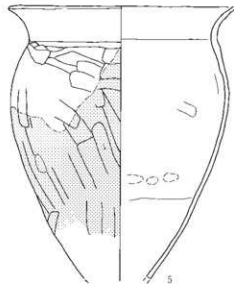
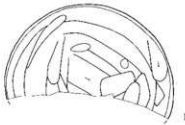


カマド

1. 灰褐色土 ローム粒10%含む。
2. 灰褐色土 ローム小ブロック10%、焼土粒5%含む。
3. にぶい黄褐色土 焼土粒5%含む。
4. にぶい黄褐色土 焼土小ブロック10%含む。
5. 黒褐色土 ローム粒5%含む。
6. 暗赤灰色灰 焼土粒20%含む。しまらない。
7. にぶい黄褐色土 焼土粒5%含む。
8. 暗赤灰色土 焼土粒10%含む。
9. にぶい赤褐色土 焼土粒40%含む。
10. 黒褐色土 焼土粒20%含む。
11. 明黄褐色土 黒褐色土20%含む。
12. 黒褐色土 ローム大ブロック10%含む。しまる。
13. 黒褐色土 ローム小ブロック20%含む。固くしまる。

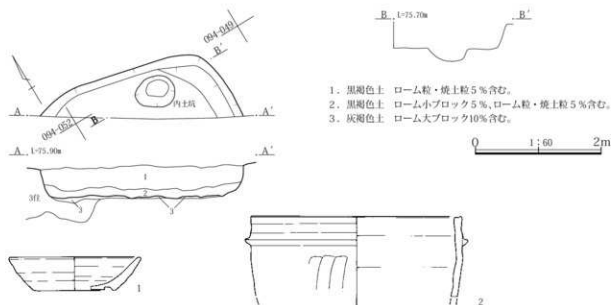


0 1:30 1m



第20図 B区1号住居跡カマド・出土遺物

II 発掘調査の記録



第21図 B区2号住居跡・出土遺物

2号住居跡 (第21図、P L 9・20)

位置 093-051 **重複** 3号住居跡より新しい。**形態** 半分以上が南調査区域外となり不明。

主軸方位 N-14°-E **規模** 南北1.25m以上、東西3.10m以上

カマド 調査区域外のため未検出か。**柱穴** 確認できなかった。

内部施設 北辺中央壁寄りに住居内土坑あり。規模は長径73cm短径50cm深さ18cmである。

床 しまりはあるが、硬化面は認められない。掘り方から約9cmほどローム混土で埋める。

掘り方 全体を平坦に掘り下げる。埋没状況 壁際から徐々に埋没しており、自然埋没と見られる。

遺物 概して少ない。時期 出土遺物から10世紀後半に比定される。

3号住居跡 (第22・23図、P L 10・11・21)

位置 096-051 **重複** 2号住居跡より古く、6号住居跡・17号土坑より新しい。

形態 南北とも調査区域外となるが、ほぼ正方形と推測される。**主軸方位** N-80°-E

規模 南北3.65m、東西3.80m

カマド 東辺のほぼ中央に設置され、燃焼部の中心は壁の延長線上にある。北東部1/4は調査区外となる。主軸方位はN-87°-W。規模は、焚口～煙道が1.2m、袖焚口幅が0.93mである。火床面から煙道部へは、急激に斜めに立ち上がる。遺物は燃焼部でやや多く出土するが、掲載した杯のほか、甕の破片も多い。掘り方規模は、主軸方向1.24m、幅0.87m以上である。

柱穴 1基確認される。柱穴の規模(長径・短径・深さcm) P 1:30、25、18

内部施設 カマド右脇で住居南東隅に貯蔵穴を設ける。平面形態は隅丸長方形で、断面は皿形。規模は長径87cm短径65cm深さ10cmである。遺物は土師器杯の大片が出土するが、西側周溝上にも出土しており、埋没土内への混入であろう。周溝は北西隅から北辺・西辺とも調査区域外まで延び、南辺は貯蔵穴から西へ調査区域外へ延びる。全体に連続するものかは不明である。規模は幅42～27cm、深さ11cmである。

床 全体に固くしまる。焼土・炭化物を含んだ黒褐色土を貼る。掘り方から約18cmほど埋める。

掘り方 中央部・南端部に土坑状、溝状の落ち込みが見られる。床下土坑は北西隅に位置し円形を呈する。規

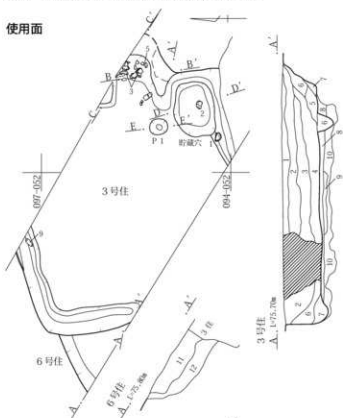
楕は長径127cm短径124cm深さ7cmである。

埋没状況 壁際から徐々に埋没しており、自然埋没と見られる。

遺物 カマド燃焼部からの出土が多いほか、貯蔵穴西の南壁際に杯がまどまっており、周辺に置かれていたものであろう。また、北辺中央部で棒状礫1点が出土する。

時期 出土遺物から8世紀半ばに比定される。

使用面



貯蔵穴

D, 1-75.30m



貯蔵穴

1. 灰黄褐色土 焼土粒・ローム粒5%含む。

P1

1-75.10m



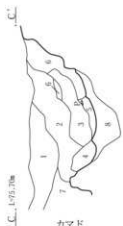
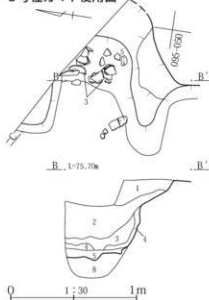
ピット1

1. 灰褐色土 ローム粒・焼土・炭化物5%含む。
2. 黒褐色土 ローム粒40%含む。

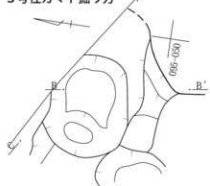
1. 黒褐色土 ローム粒5%、白色軽石・焼土粒わずかに含む。
2. 黒褐色土 ローム小ブロック5%、焼土粒1%含む。
3. 灰褐色土 ローム大ブロック20%、焼土小ブロック10%含む。
4. 黒褐色土 ローム小ブロック10%、焼土小ブロック5%含む。
5. にぶい黄褐色粘質土 黒褐色土10%、焼土粒5%含む。
6. 黒褐色土 ローム小ブロック5%含む。
7. 黒褐色土 ローム大ブロック5%含む。
8. にぶい黄褐色土+黒褐色土 焼土小ブロック5%、炭粒5%含む。固くしめる。貼り床。
9. 褐灰色粘質土 焼土小ブロック5%、炭粒5%含む。
10. にぶい黄褐色土 ローム大ブロック20%含む。
11. 灰黄褐色土 ローム小ブロック20%含む。
12. にぶい黄褐色土 ローム大ブロック40%含む。

0 1:60 2m

3号住カマド使用面



3号住カマド掘り方

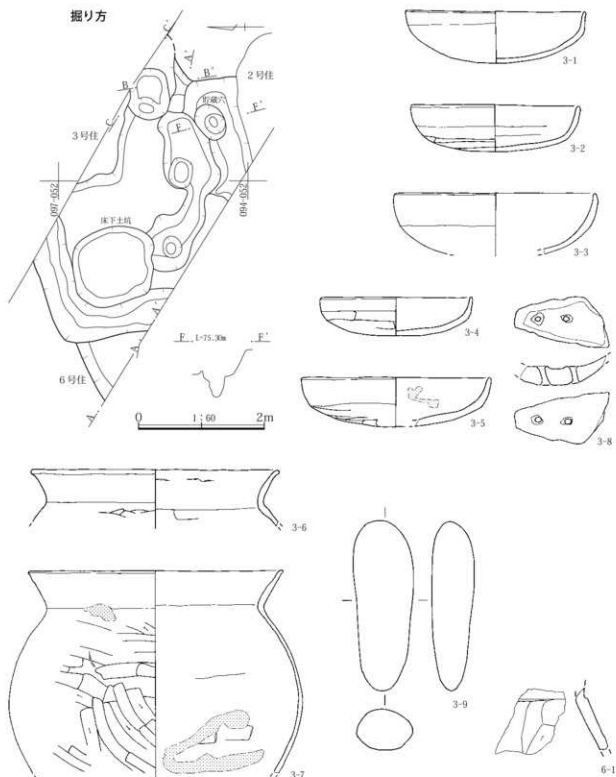


カマド

1. にぶい褐色土 ローム小ブロック5%、焼土粒5%含む。
2. にぶい褐色土 ローム小ブロック20%、焼土粒を10%含む。
3. にぶい黄褐色土 焼土粒20%含む。
4. 明赤褐色焼土 灰褐色土10%含む。
5. 黒褐色土 焼土粒5%、炭粒5%含む。
6. 暗褐色土 焼土小ブロック20%含む。
7. 褐灰色土 ローム粒5%含む。
8. にぶい黄褐色土 ローム小ブロック20%、焼土・炭粒5%含む。

第22図 B区3・6号住居跡、3号住居跡カマド

II 発掘調査の記録



第23図 B区3・6号住居跡掘り方、3・6号住居跡出土遺物

6号住居跡 (第22・23図、P L 11・21)

位置 096-055 重複 3号住居跡より古い。形態 調査部分が少なく不明。主軸方位 不明

規模 南北1.13m以上、東西1.03m以上

カマド 調査区域外のため未検出か。柱穴・内部施設・床・掘り方 確認できなかった。

埋没状況 調査面積が少なく、判然としない。**遺物** 少ない。掲載遺物のほか土師器甕小片がある。

時期 出土遺物から7世紀代に比定される。

4号住居跡 (第24～26図、P.L11・12・21・22)

位置 090-046 重複 9号住居跡より新しい。

形態 半分以上が南調査区域外となるが、方形と推測される。**主軸方位** N-88°-W

規模 南北2.43m、東西3.24m

カマド 東辺の中央付近と推定され、燃焼部は住居内に位置する。主軸方位はN-80°-E。規模は、焚口～煙道が1.3m、袖焚口幅が0.8m以上である。火床面から煙道部へは、緩やかに立ち上がる。遺物は甕類が埋没土上層から多量に出土した。掘り方規模は、主軸方向2.2m以上、幅1.35m以上である。

柱穴・内部施設 確認できなかった。

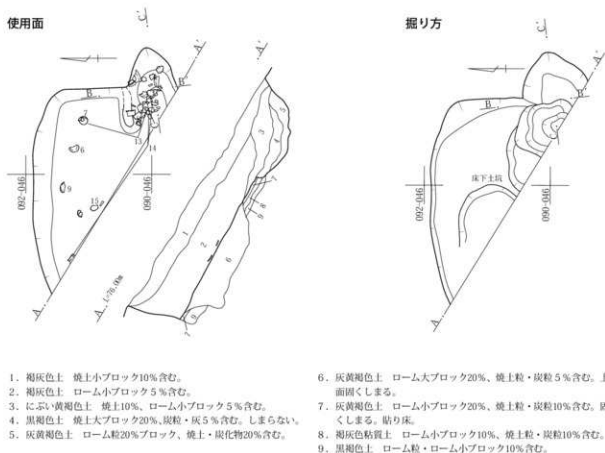
床 一部に固く締まった貼り床あり。掘り方から約16cmほどローム混土で埋める。

掘り方 全体に平坦に掘り込む。床下土坑は中央西寄りに設置されるが、南半分は調査区域外となり形態不明。

埋没状況 均質な埋没土で一気に埋没しており、人為的な埋没も想定される。

遺物 カマド内での遺物出土が非常に多いほか、北西隅寄り床面でほぼ完形の土師器杯2点が出土する。

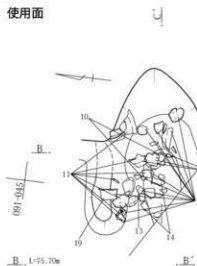
時期 出土遺物から8世紀第1四半期に比定される。



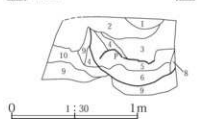
第24図 B区4号住居跡

II 発掘調査の記録

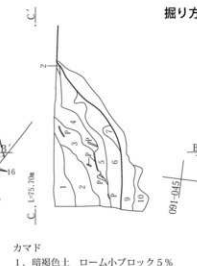
使用面



B, l=75.70m



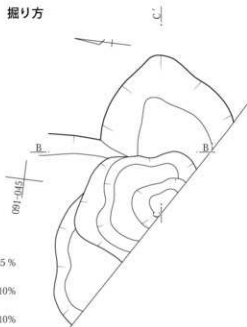
掘り方



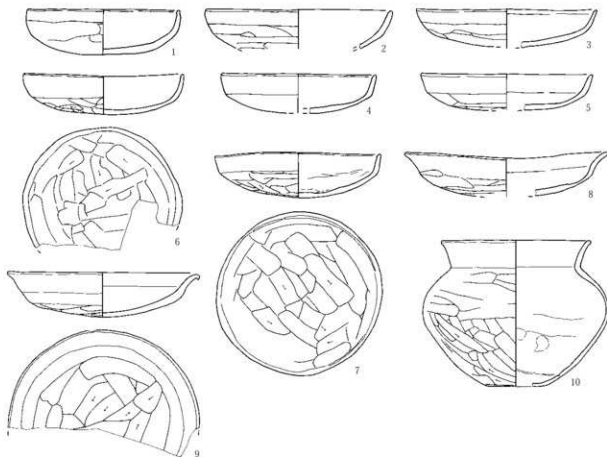
カマド

1. 暗褐色土 ローム小ブロック5%含む。
2. 暗褐色土 ローム小ブロック10% 焼土粒5%含む。
3. 暗褐色土 ローム小ブロック10% 灰小ブロック10%含む。
4. にふい赤褐色焼土
5. にふい赤褐色焼土+赤灰色土
6. 赤灰色土 焼土大ブロック20%含む。

掘り方

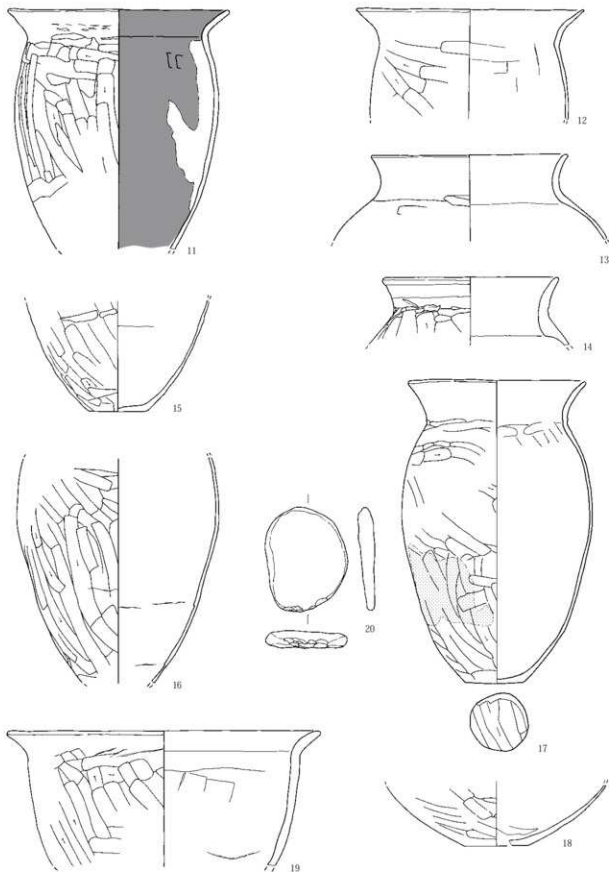


7. 赤灰色土 焼土粒1%含む。
8. 赤褐色焼土ブロック カマド壁の崩落か。
9. 黒褐色土 焼土小ブロック20%含む。
10. 褐色土 ローム小ブロック10%含む。



第25図 B区4号住居跡カマド・出土遺物(1)

3 B区の遺構と遺物(II)竪穴住居跡



第26図 B区4号住居跡出土遺物(2)

II 発掘調査の記録

5号住居跡 (第27～29図、P L12・13・22)

位置 088-040 重複 8号住居跡より新しい。

形態 重複する8号住居跡と床面が近く、西辺の輪郭は不明ながら、方形と推測される。

主軸方位 N-67°-E 規模 南北4.34m、東西4.3m以上

カマド 東辺中央南寄りに設置され、燃焼部は住居内と推定される。主軸方位はN-87°-W。使用面の規模は不明。調査深度浅く断面形不明。遺物は炭類が多く出土し、カマドにかけられていたものと考えられる。掘り方規模は、主軸方向1.19m、幅0.83mである。

柱穴 3基礎認される。柱穴の規模(長径・短径・深さcm) P1:30、27、22 P2:29、23、57 P3:30、28以上、35 内部施設 カマドの右手、住居南東隅に貯蔵穴を設ける。形態は平面楕円形で、断面はU字形。規模は長径69cm短径68cm深さ27cmである。作うと思われる遺物は出土していない。

床 一部に固く締まった貼り床あり。掘り方から約6cmほどローム混土で埋める。

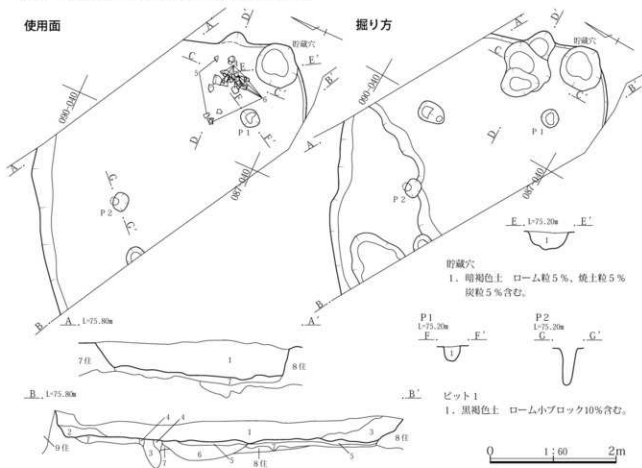
掘り方 西側1/3程を掘り残し気味に掘り下げる。埋没状況 壁際から徐々に埋まる。

遺物 カマド周辺を除けば、出土遺物はあまり多くない。

時期 出土遺物から8世紀第2四半期に比定される。

使用面

掘り方



1. 灰黄褐色土 焼土粒・ローム粒5%含む。

2. 灰黄褐色土 ローム粒20%含む。

3. 灰黄褐色土 ローム粒5%含む。

4. 灰黄褐色土 ローム小ブロック20%含む。

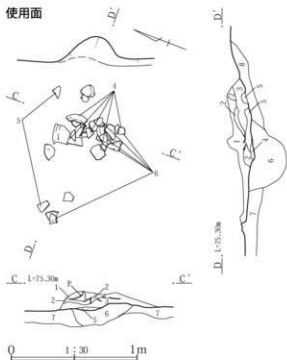
5. 灰黄褐色土 ローム小ブロック40%、焼土粒10%含む。固くしまる。貼り床。

6. 黒褐色土 ローム小ブロック20%、焼土小ブロック5%含む。

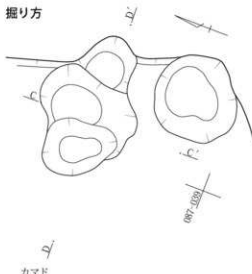
7. 褐灰色土 ローム小ブロック5%含む。

第27図 B区5号住居跡

使用面

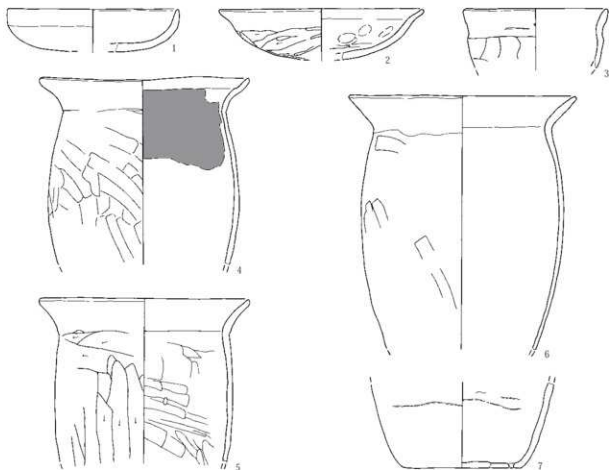


掘り方



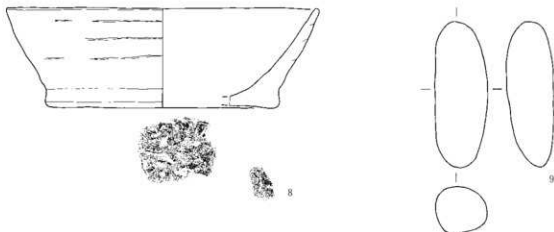
カマド

1. 灰褐色土 焼土粒5%含む。
2. 灰褐色土+明赤褐色焼土小ブロック
3. 褐灰色土 焼土粒10%、炭粒5%含む。
4. 明赤褐色焼土大ブロック 天井の崩落土か。
5. 黒褐色土 焼土大ブロック5%、炭化物10%含む。
6. 黒褐色土 焼土・炭化物5%含む。
7. 暗褐色土 焼土・炭化物5%含む。
8. 褐灰色土



第28図 B区5号住居跡カマド・出土遺物(1)

II 発掘調査の記録



第29図 B区5号住居跡出土遺物(2)

7号住居跡(第30図、P.L.13)

位置 090-042 重複 8号住居跡、13号土坑より古い。 **形態** 調査面積が少なく不明。

主軸方位 N-31°-W **規模** 西辺1.40m以上、南辺1.20m以上

カマド 重複により消滅か。 **柱穴・内部施設** 確認できなかった。

床 固く締まった貼り床。掘り方から約5cmほどローム混土で埋める。

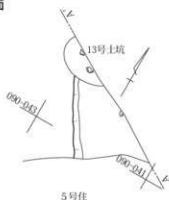
掘り方 中央に土坑状の落ち込みは見られるが、明確な床下土坑などはない。

埋没状況 ローム大ブロックを多く混入しており、人為的な埋没を思わせる。上層に貼り床状の堆積があり、別の住居などが重複していた可能性あり。

遺物 埋没土中から古墳時代と思われる土師器の小破片が数点出土したのみである。調査時に測図して取り上げられた土師器杯(13土-1)は、土層断面観察及び遺物の年代観から13号土坑に帰属すると判断した。

時期 出土遺物及び8号住居跡の年代観から古墳時代に比定される。

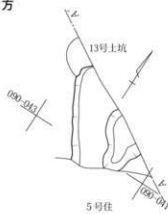
使用面



5号住



掘り方



5号住

1. 灰黄褐色土 ローム小ブロック10%、焼土粒5%含む。
2. 明黄褐色土 焼土粒わずか含む。別住居床面か。
3. にふい黄褐色土 ローム大ブロック20%含む。

4. にふい黄褐色土 しまりよく固い。貼り床。
5. 灰黄褐色土 ローム大ブロック20%、黒褐色土小ブロック20%含む。

第30図 B区7号住居跡

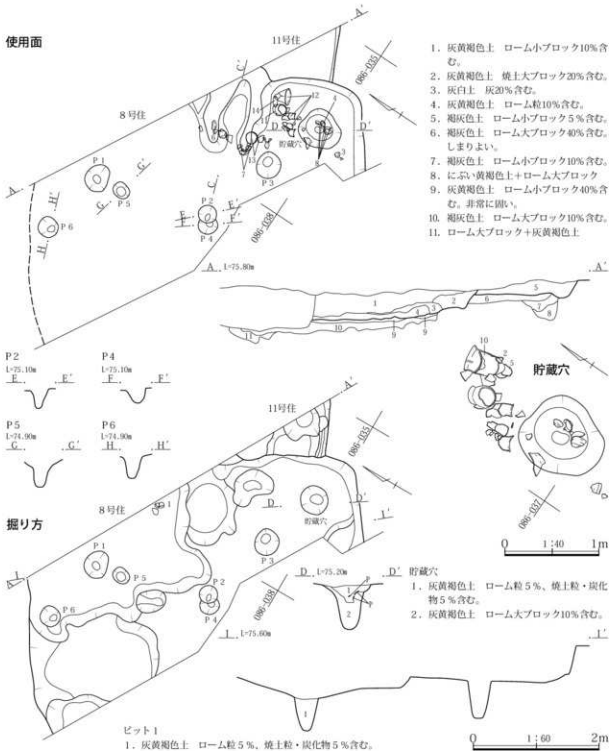
8号住居跡 (第31～33図、P.L14・15・23)

位置 087-038 重複 5号住居跡より古く、7・11号住居跡より新しい。

形態 半分以上が調査区域外となるが、方形と推測される。主軸方位 N-55°-E

規模 南北5.37m、東西4.12m以上

カマド 東辺のほぼ中央に設置され、燃焼部は住居内に位置する。主軸方位はN-69°-E。規模は、焚口～煙



第31図 B区8・11号住居跡、8号住居跡貯蔵穴

II 発掘調査の記録

道が1.19m、袖突口幅が0.48mである。火床面から煙道部へは、急激に斜めに立ち上がる。土師器甕(7)は逆位でもあり、袖の構築材であろう。掘り方規模は、主軸方向1.51m以上、幅0.8mである。

柱穴 6基が確認された。柱穴の規模(長径・短径・深さcm) P1:45、37、52 P2:29、29、31 P3:42、37、57 P4:30、30、23 P5:29、23、38 P6:32、29、39

内部施設 カマドの右手、住居南東隅に貯蔵穴を設ける。形態は上面不整形円形で中位から小円形となる。断面は細長いU字形。規模は長径65cm短径60cm深さ44cmである。内部から完形の土師器杯や甕の大片が出土するが、状況から流れ込みであろう。

床 非常に固く締まった貼り床。掘り方から約5cmほどローム混土で埋める。

掘り方 西半分に土坑状の落ち込みが見られるが、明確な床下土坑などはない。

埋没状況 壁際から徐々に埋没しており、自然埋没と見られる。

遺物 カマド右壁際に重なって多量の遺物が出土する。使用痕跡が良好に残っており、カマドでの使用が推測される。倒立するものもあるため、カマド脇に置かれていたものが多いと思われる。

時期 出土遺物から7世紀前半に比定される。

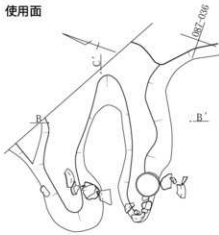
特記事項 土師器甕の使用痕跡:甕(10)は作図正面に黒斑があり、口縁に向かって扇形に強い火受けが延び、黒斑の下位から底部にかけても強い火受けがある(ただし、一部が欠損しており推定)。裏側対角面も底部から先細りに強い火受けが胴部下半部まで延びる。また、まばらなススも胴部下半部までで納まっている。粘土は胴部下位1/3をほぼ全周するが、正面と裏面の火受け部分には認められない。ススは全体的に少ない。両側部を比較すると、左側部の火受け範囲が高いため、カマドに対する正面と考える。ただし、全体に良く火が回っている。内面では胴部中位まではほぼ水平に汚れが広がり、右側部内側やや正面よりから柱状に口縁へ延び、未広がりに口唇部の正面から両側部まではほぼ半周している。この汚れは「吹きこぼれ」と推測する。甕(11)はススが胴部から底部まで全周し、特に胴部下位1/3に暗赤褐色の濃いススが全周する。また、濃いススは正面から両側部にかけて、スス範囲上端から下へ5cm前後の幅で付着し、正面だけは色調の薄いススが柱状に下へ延びて、下位の濃いススと接続する。また、正面では上位の濃いススから口唇部にかけて柱状に弱い火受けが延びている。黒斑は右側部やや裏寄りであり、左側部には認められない。状況から、カマドに対する正面は、作図正面に一致するものとする。底部は摩滅が著しい。内面では胴部中位まではほぼ水平に汚れが広がり、正面内側で柱状に口縁へ延び、未広がりに口唇部の正面から右側部を経て裏面まではほぼ半周している。この汚れは「吹きこぼれ」と推測する。甕(12)は作図正面に黒斑があり、裏側対角面にも強い黒斑がある。土器右側部に強い火受けがあるが、下部は欠損により不明。対して左側部上位は火を受けておらず、下部にはU字状に弱いスス・火受けがある。したがって、カマドに対する正面は作図右側部であろう。内面は口縁まで強く火を受ける。甕(13)は外面の火受けが強く、胴部上位を全周するが、裏面はU字形に中位まで下がり、その下に弱いススが広がる。作図正面は火受けが強く、右寄り強い火受けが口縁まで扇型に広がり、内面上位にまで及ぶ。両側部には黒斑とも火受けとも見えない弱いススが始まり、裏面へU字形に落ち込んでいる。状況から、カマドに対する正面は、作図正面にほぼ一致するものとする。内面では胴部中位まではほぼ水平に汚れが広がり、左側部内面でも若干上方へ上がるが口縁までは達していない。甕(5)も作図正面に黒斑がある。

11号住居跡(第31・34図、P L 15・24)

位置 087-036 重複 8号住居跡より古い。

形態 調査部分が少なく不明。 **主軸方位** 不明 **規模** 南北1.16m以上、東西0.92m以上

使用面

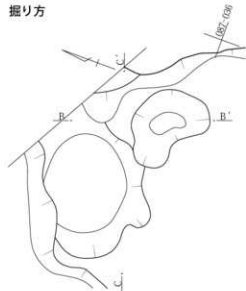


B. L=75.50m



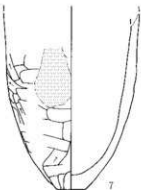
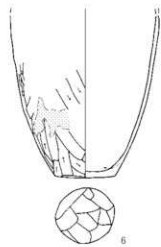
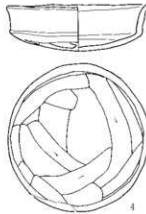
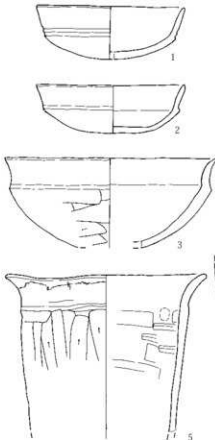
0 1:30 1m

掘り方



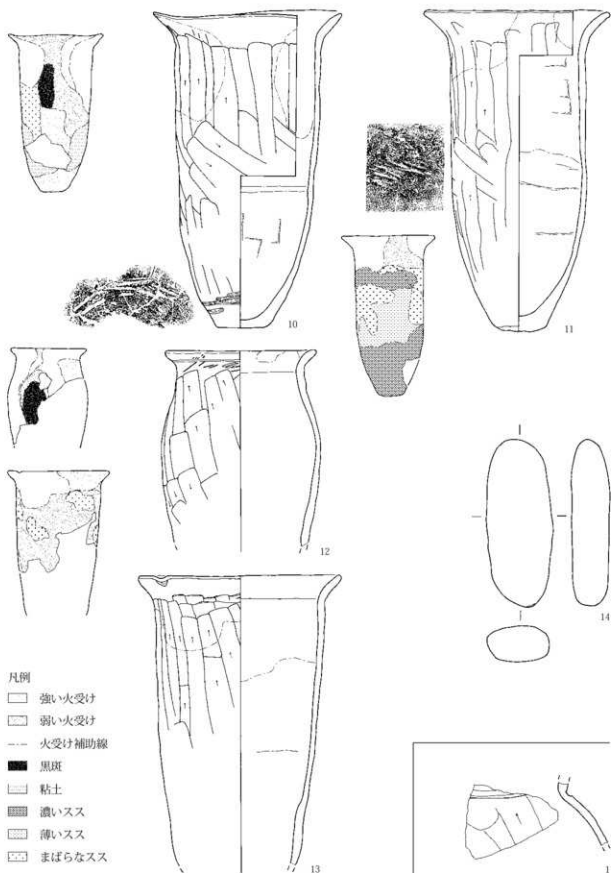
カマド

1. にふい黄褐色土 ローム粒5%含む。
2. 灰黄褐色土 ローム小ブロック5%、焼土粒5%含む。
3. にふい黄褐色土 ローム小ブロック10% 焼土粒10%含む。
4. 灰黄褐色土 焼土大ブロック20%含む。
5. 灰褐色土 焼土小ブロック20%含む。
6. 赤色焼土 崩落土。
7. 灰黄褐色土 粘性あり。焼土粒を40%、ローム粒・炭化物・灰を含む。
8. 黒褐色土 ローム小ブロック10%、焼土小ブロック10%含む。
9. 黒褐色土 ローム大ブロック40%含む。
10. 黒褐色土 ローム大ブロック20%含む。
11. にふい増焼土。
12. にふい黄褐色土 焼土粒10%含む。
13. 灰褐色土 焼土大ブロック20%含む。



第32図 B区8号住居跡カマド・出土遺物(1)

II 発掘調査の記録



第33図 B区8号住居跡出土遺物(2)

第34図 B区11号住居跡出土遺物

床 やや締まるが明確な貼り床はない。掘り方から約10cmほどローム混土で埋める。

掘り方 床下土坑と見られる明確な土坑もあるが、調査面積が少なく詳細は不明である。

埋没状況 調査面積が少なく不明。 **遺物** 土師器製の破片4点が出土する。

時期 出土遺物及び8号住居跡の年代観から7世紀代に比定される。

カマド 重複のため消滅か。 **柱穴・内部施設** 確認できなかった。

9号住居跡 (第35・36図、P L 15・16・24)

位置 091-046 **重複** 4号住居跡より古く、10号住居跡より新しい。

形態 半分以上が調査区域外となるが、方形と推測される。 **主軸方位** N-66°-W

規模 南北5.03m、東西4.30m以上

カマド 東辺の中央やや南寄りに設置され、燃焼部は住居内に位置する。主軸方位はN-70°-E。使用面の規模は不明。火床面から煙道部側へは、急激に斜めに立ち上がる。遺物は土師器杯の出土が多いが、埋没土上層が多い。掘り方規模は、主軸方向1.5m、幅1.02mである。

柱穴 4基が確認される。柱穴の規模(長径・短径・深さcm) P 1:34、32、52 P 2:44、36以上、32 P 3:50以上、47、21 P 4:46、38、44

内部施設 南辺の住居南東隅近くに貯蔵穴を設ける。形態は平面不整形、断面はU字形で一部凹む。規模は長径57cm短径51cm以上深さ45cmである。出土遺物はほとんどない。

床 固く締まった貼り床。掘り方から約7cmほどローム混土で埋める。

掘り方 全体に平均に掘り込む。床下土坑はカマド左脇に位置し隅丸方形を呈する。規模は長径67cm短径52cm 深さ17cmである。 **埋没状況** 観察条件が悪く不明。

遺物 やや多いが床面での出土は少ない。北壁寄り床面で裏の底部が出土している。

時期 出土遺物から8世紀第1四半期に比定される。

10号住居跡 (第35図、P L 16)

位置 092-046 **重複** 9号住居跡より古い。 **形態** 調査面積が少なく不明。 **主軸方位** 不明

規模 北東辺4.80m、北西辺2.35m以上

カマド 重複により消滅か。 **柱穴・内部施設** 確認できなかった。

床 硬化面は見られない。掘り方から約9cmほどローム混土で埋める。

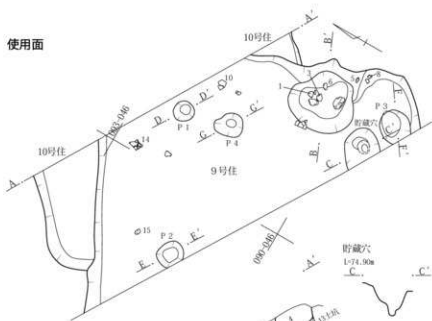
掘り方 全体に平均に掘り込む。

埋没状況 調査面積が少なく不明。 **遺物** ほとんど出土していない。

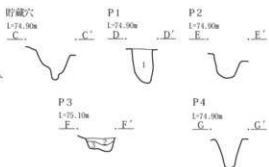
時期 8号住居跡の年代観から8世紀初め以前である。

II 発掘調査の記録

使用面



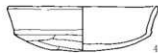
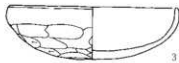
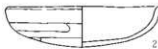
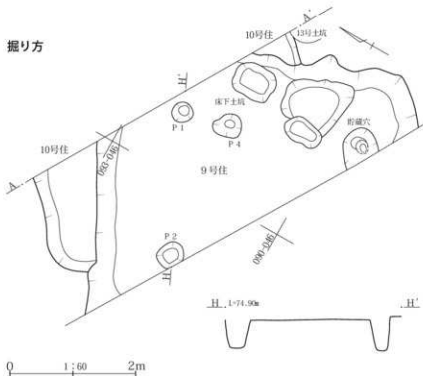
1. 褐灰色土 ローム粒5%含む。
2. 褐灰色土 ローム小ブロック5%含む。
3. 褐灰色土 ローム粒わずか含む。
4. 褐灰色土 ローム小ブロック10%含む。
5. 黒褐色土 ローム粒5%含む。
6. 灰黄褐色土 ローム粒を多く含む。固くしまっている。詰り床。
7. 褐灰色土 ローム大ブロック40%含む。
8. ぶい黄褐色土 崩落土。



ビット

1. 褐灰色土 ローム小ブロック10%含む。
2. 黒褐色土 ローム小ブロック5%、粘土大ブロック10%含む。
3. ぶい黄褐色土 ローム小ブロック10%含む。

掘り方

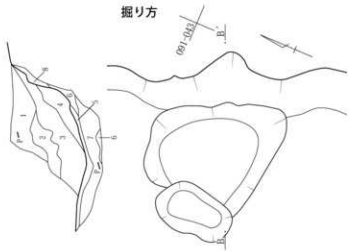


第35図 B区9・10号住居跡、9号住居跡出土遺物(1)

使用面



掘り方

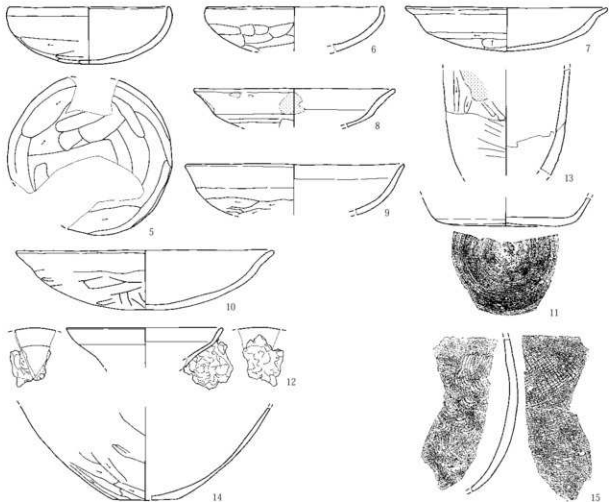


カマド

1. 灰黄褐色土 焼土粒5%、ローム小ブロック5%含む。
2. 灰黄褐色土 ローム粒・焼土粒5%含む。
3. にぶい黄褐色粘質土 焼土粒5%、ローム小ブロック5%含む。
4. にぶい黄褐色土 焼土大ブロック40%含む。

5. 褐灰色灰 焼土粒5%含む。
6. 明黄褐色土 ローム粒20%含む。
7. 灰黄褐色土 焼土粒・灰5%含む。
8. 褐灰色土 焼土粒10%含む。

0 1:30 1m



第36図 B区9号住居跡カマド・出土遺物(2)

II 発掘調査の記録

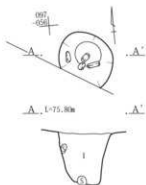
(2)土坑

11号土坑 (第37図、P L 17) 位置096-055。楕円形。壁は斜めに立ち上がる。底面はほぼ平坦。規模は長径60cm短径48cm以上深さ55cmである。土師器長胴甕破片1点・杯片2点、須恵器杯片1点、こも編み石に似る川原石4点が底面などで出土している。時期は出土遺物から古墳時代と推測される。

13号土坑 (第37図、P L 17・24) 位置090-042。7号住居跡よりも新しい。北側が調査区域外となり詳細は不明ながら、調査時の測図では楕円形と推測される。断面観察及び遺物の年代観から、東側に同時期の遺構が想定でき、一連の遺構として掲載した。規模は西側だけで、長径91cm短径34cm以上深さ28cmである。東側の遺構まで含めると長さ184mとなる。出土遺物は土師質の杯2点(13土-1・2)のほか、土師器片若干が出土する。時期は、出土遺物から10世紀後半に比定される。

17号土坑 (第37図、P L 17・24) 位置095-048。3号住居跡よりも古い。半分以上が北側調査区域外となり詳細は不明。規模は長径131cm以上短径61cm以上深さ91cmである。遺物は出土しなかった。時期は3号住居跡の年代観から8世紀半ば以前である。

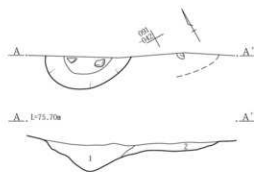
11号土坑



B区11号土坑

1. にぶい黄褐色土 ローム小ブロック5%含む。

13号土坑



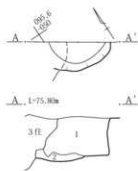
B区13号土坑

1. 灰黄褐色土 ローム粒5%含む。
2. 褐灰色土 ローム小ブロック5%含む。



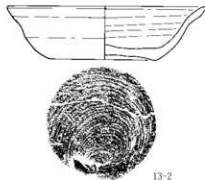
13-1

17号土坑



B区17号土坑

1. 黒褐色土 ローム粒5%含む。
2. 黒褐色土+ローム小ブロック



13-2



第37図 B区11・13・17号土坑、13号土坑出土遺物

第3表 B区土坑(ピット状)計測表 単位:cm

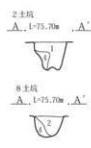
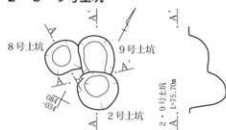
No	位置	長径	短径	深さ
1	080-024	70	55	24
2	084-033	45	40	40
3	084-033	35	25	20
4	084-034	52	41	29
5	084-057	60	36	35
6	099-060	39	21以上	43
7	083-033	40	34	24
8	084-034	40以上	34	23
9	084-033	41以上	37	21
10	084-033	28	26	34
12	099-058	50	41	42
14	092-048	33	29	25
15	093-048	51	45	30



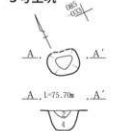
1号土坑



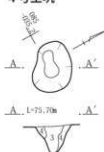
2・8・9号土坑



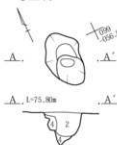
3号土坑



4号土坑



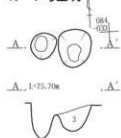
5号土坑



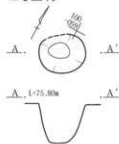
6号土坑



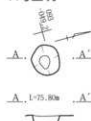
10・7号土坑



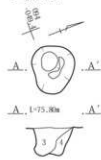
12号土坑



14号土坑



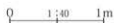
15号土坑



B区1～10・12・14・15号土坑

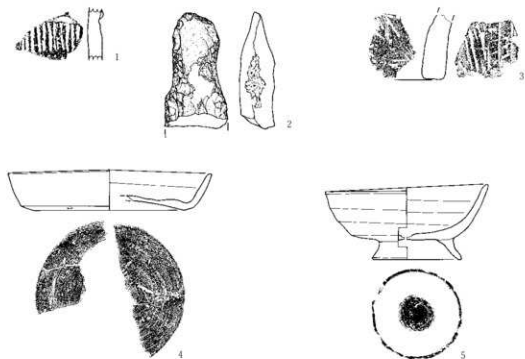
1. 褐灰色土 やや砂質。ローム粒5%含む。
2. 黒褐色土 ローム小ブロック5%含む。

3. 黒褐色土 ローム粒5%、鏡土粒5%含む。
4. 黒褐色土+ローム大ブロック



第38図 B区1～10・12・14・15号土坑、8号土坑出土遺物

II 発掘調査の記録



第39図 B区遺構外遺物

(3)土坑(ピット状) (第38図、P L17・18・24)

ここでは、ピット状の形態を呈する土坑を扱う。時期は出土遺物がなく確定できない。埋没土に時期を推定する手がかりとなるテフラの混入もない。位置については、2～4、7～10号土坑が集中して分布する。出土遺物は少ない。8号土坑から棒状礫(8-1)が出土し、7号土坑、10号土坑から土師器破片が1点ずつ出土している。

(4)遺構外遺物 (第39図、P L24)

縄文時代の出土遺物はA区同様に少ない。土器では縄文時代中期中葉の深鉢胴部片(1)があり、石器では打製石斧(2)のほか、9号住居跡周辺で剥片2点(未掲載)が出土している。3は埴輪の底部であり、周辺に分布する古墳群に由来するものであろう。5は完形の椀であるが、遺構に伴っていない。同時期の遺構には、2号住居跡や13号土坑がある。

4 自然科学分析

(1)はじめに

本遺跡では、遺跡理解のため、テフラ認定を含めた地質調査を株式会社火山灰考古学研究所に委託して、3地点（第6図）について分析を行った。なお、分析における土層名称と基本土層の対照関係は、A層：V層、b層：VI層、以下3層～8層がVII層～XI層に対応している。

(2)分析の目的

関東平野北西部に位置する藤岡台地とその周辺に分布する後期更新世以降に形成された地層や土壌の中には、浅間や榛名など北関東地方の火山、さらに中部地方や中国地方さらには九州地方などの火山に由来するテフラ（火山砕屑物、いわゆる火山灰）が多く認められる。その中には、噴出年代が明らかにされている指標テフラがあり、これらとの層位関係を遺跡で求めることで、遺構や遺物包含層の層位や年代を知ることができ、周辺地形の成立過程を把握し、住環境復元にも役立てることが可能である。

(3)土層の層序（第40図）

ア A区テストピット4

A区テストピット4では、下位より灰褐色泥層（層厚5cm以上、8層）、暗灰色腐植質泥層（層厚22cm、7層）、下部2cmが白色を呈する黄褐色軽石層（層厚10cm、軽石の最大径6mm、石質岩片の最大径2mm、6層）、灰褐色土（層厚17cm、5'層）、黄色細粒軽石混じり灰色土（層厚14cm、軽石の最大径2mm）、黄白色風化細粒軽石層（層厚4cm、軽石の最大径2mm）、粗粒火山灰混じりで灰色がかった褐色土（層厚13cm、以上4層）、わずかに灰色がかった褐色土（層厚13cm、4'層）、黄褐色土ブロック混じり褐色土（層厚17cm、3層）、黄色細粒軽石を少量含むわずかに灰色がかった褐色土（層厚9cm、軽石の最大径2mm）、黄色細粒軽石や灰白色粗粒火山灰を多く含む黄褐色土（層厚14cm、軽石の最大径2mm、以上c層）、若干色調が暗い灰褐色土（層厚13cm、A層）が認められる。

イ A区テストピット5

A区テストピット5では、下位より暗灰色腐植質泥層（層厚22cm以上、7層）、下部2cmが白色を呈する黄褐色軽石層（層厚9cm、軽石の最大径5mm、石質岩片の最大径2mm、6層）、灰褐色土（層厚8cm、5'層）、灰色土（層厚12cm）、黄色細粒軽石混じり暗灰色土（層厚14cm、軽石の最大径2mm）、黄色風化細粒軽石層（層厚6cm、軽石の最大径2mm、以上4層）、黄褐色土ブロック混じりでわずかに灰色がかった褐色土（層厚25cm、4'層）、黄色細粒軽石や灰白色粗粒火山灰を少量含むわずかに灰色がかった褐色土（層厚12cm）、黄色細粒軽石や灰白色粗粒火山灰を多く含むわずかに灰色がかった褐色土（層厚13cm、軽石の最大径2mm、以上c層）、黄色軽石層（層厚9cm、軽石の最大径7、石質岩片の最大径2mm、b層）、黒褐色土ブロック混じりで若干色調が暗い灰褐色土（層厚10cm、A層）が認められる。

ウ B区テストピット1-A

B区テストピット1-Aでは、下位より灰色泥層（層厚5cm以上、8層）、暗灰色腐植質泥層（層厚23cm）、灰色粘質土泥層（層厚2cm）、灰褐色粘質土（層厚2cm）、黄色粗粒火山灰層（層厚0.8cm）、灰褐色土（層厚4cm）、灰褐色土（層厚4cm、以上7層）、下部2cmが白色を呈する黄褐色軽石層（層厚9cm、軽石の最大径5mm、石質岩片の最大径2mm、6層）、灰褐色土（層厚17cm、5'層）、灰色土（層厚10cm）、橙色細粒軽石層（層厚2cm、軽石の最大径2mm）、粗粒火山灰混じり灰褐色土（層厚3cm、以上4層）、粗粒火山灰混じり黄褐色土（層厚15cm、4'層）、黄褐色土ブロック混じり褐色土（層厚31cm、3層）、黄色細粒軽石や灰白色粗粒火山灰を含む

II 発掘調査の記録

褐色土（層厚9cm, 軽石の最大径3mm, c層）、黄色軽石に富む黄褐色土（層厚8cm, 軽石の最大径8mm, 石質岩片の最大径2mm, b層）、暗灰褐色土（層厚41cm, A層）、灰色表土（層厚17cm）が認められる。

(4) 考察-テフラの層位について

土層の観察により、いわゆるローム層中の少なくとも4層準にテフラの降灰が認められた。最下位のテフラは6層で、層相から約2.0～2.4万年前*1に浅間火山から噴出した浅間板鼻黄色軽石群(As-BP Group, 新井, 1962, 早田, 1996, 未公表資料)のうちの最下部の約2.4万年前*1に降灰した室田軽石(MP, 森山, 1972, 早田, 1990)に同定される。なお、テフラ・カタログ(町田・新井, 2003)で区分されたAs-BP Groupの下部、中部、上部については、層位や層相ではなくテフラの岩石記載の記載で区分された可能性が高いことから(早田, 未公表資料)、注意を要する。

なお、西毛地域では、厚いMPの直下に約2.4～2.5万年前*1に南九州の始良カルデラから噴出した始良Tn火山灰(AT, 町田・新井, 1976, 2003, 松本ほか, 1987, 村山ほか, 1993, 池田ほか, 1995など)の薄層が認められることが多い。しかしながら、今回の肉眼観察では認められなかった。

4層中には、As-BP Groupの中部または上部に相当するテフラの堆積が認められる。そのすぐ下位にもAs-BP Groupが降灰しているようにも見えるが、明確な堆積を示す層相は認められなかった。

c層に含まれる黄色細粒軽石や、灰白色粗粒火山灰については、b層に多く含まれている約1.3～1.4万年前*1に浅間火山から噴出した浅間板鼻黄色軽石(As-YP, 新井, 1962, 町田・新井, 1992)に由来する可能性もあるが、ここでは浅間大窪沢第1軽石(As-0k1, 約1.7万年前*1, 中沢ほか, 1984, 早田, 1996)および浅間大窪沢第2軽石(As-0k2, 約1.6万年前*1, 中沢ほか, 1984, 早田, 1996)からなる大窪沢テフラ群(As-0k Group)に由来する可能性を指摘しておきたい。b層の比較的粗粒の黄色軽石層は、層位や層相などから、As-YPに同定される。

今後、火山ガラス比分析や屈折率測定などによるさらなるテフラの降灰層準の検出と、テフラ同定精度の向上が期待される。

(5) まとめ

地質調査を行った結果、浅間板鼻黄色軽石群(As-BP Group, 約1.9～2.4万年前*1)のうちの少なくとも2層、浅間大窪沢テフラ群(As-0k Group, 約1.6～1.7万年前*1)に由来する可能性のある粒子、さらに浅間板鼻黄色軽石(As-YP, 約1.3～1.4万年前*1)などを検出することができた。

1放射性炭素(14C)年代、ATおよびAs-YPの較正年代については、各々約2.6～2.9万年前と約1.5～1.65万年前と考えられている(町田・新井, 2003)。

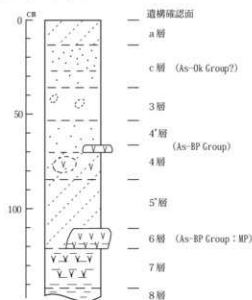
文献

- 新井房夫(1962)関東盆地北西部地域の第四紀編年。群馬大学紀要自然科学編, 10, p.1-79。
新井房夫(1979)関東地方北西部の縄文時代以降の示標テフラ層。考古学ジャーナル, no.53, p.41-52。
新井房夫(1993)温度一定型屈折率測定法。日本第四紀学会編「第四紀試料分析法—研究対象別分析法」, p.138-148。
英牧重雄(1968)浅間火山の地質。地質研専報, no.45, 65p。
池田見子・奥野 光・中村俊夫・小林哲夫(1995)南九州、始良カルデラ起源の大窪沢軽石と入戸火砕流中の炭化樹木の加速器14C年代。第四紀研究, 34, p.377-379。
町田 洋・新井房夫(1976)広域に分布する火山灰—始良Tn火山灰の発見とその意義—。科学, 46, p.339-347。
町田 洋・新井房夫(1992)火山灰アトラス。東京大学出版会, 276p。
町田 洋・新井房夫(2003)新編火山灰アトラス。東京大学出版会, 336p。
松本英二・前田保夫・竹村直二・西田史朗(1987)始良Tn火山灰(AT)の14C年代。第四紀研究, 26, p.79-83。
村山昭雄(1972)榛名火山東・南麓の地形—とくに軽石流の地形について—。愛知教育大学地理学報告, 36-37, p.107-116。
村山雅史・松本英二・中村俊夫・岡村 直・安田尚登・平 朝彦(1993)四角沖ピストンコア試料を用いたAT火山灰噴出年代の再検討—タンデロン加速器質量分析法による浮遊性有孔虫の14C年代。地質雑, 99, p.787-798。
中沢英俊・新井房夫・遠藤静彦(1984)浅間火山。黒川—前期のテフラ層序。日本第四紀学会講演要旨集, no.14, p.69-70。

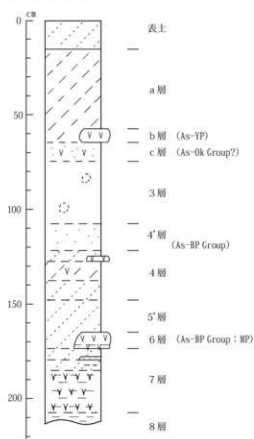
早田 勉 (1990) 群馬県の自然と風土。群馬県史通史編, 1, p.39-129.

早田 勉 (1996) 関東地方～東北地方南部の示標テフラの諸特徴—とくに御岳第1テフラより上位のテフラ—について。名古屋大学加速器質量分析計業績報告書, 7, p.256-267.

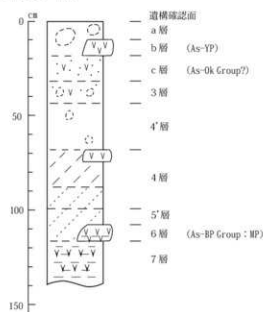
A区テストピット 4



B区テストピット 1-A



A区テストピット 5



第40図 A・B区分析部分の土層柱状図

5 まとめ

(I) 竪穴住居跡

A区とB区は直線距離でほぼ80m離れており、連続的にとらえることはできないが、7世紀～10世紀後半にわたる傾向は共通しており、ほぼ一つの集落遺構としてとらえることが可能であろう。遺構の重複関係や時期的な構成を加味すれば、おそらくB区の方が集落の中心に近いと考えられる。南側に隣接し、藤岡市教委で調査された大道南B遺跡や大道南II D遺跡で集落が発見されていないことを考えると、A区付近が南限とみることもできよう。

住居跡の大きさを見ると、最大はB区8号住居跡（7世紀前半）の南北5.37mであり、次いでB区9号住居跡（8世紀第1四半期）の南北5.03mが続く、B区10号住居跡（8世紀初以前）も同程度である。4.3m前後のものは、A区2号住居跡（10世紀後半）とB区5号住居跡（8世紀第2四半期）がある。小さいものでは、A区1号住居跡（6世紀末～7世紀初）が一边約3.5m、B区1号住居跡（8世紀半ば）が南北3.40m、B区3号住居跡（8世紀半ば）が一边3.7m前後となっている。ほかに規模を確定できないものが6軒残るが、住居の規模に関しては、各時代ごとにバラツキが時代的な傾向は認められない。

主軸方位を見ると、6世紀末～7世紀代のA区1号住居跡が真北に対して46度東に振れ（以下、○度で省略）、A区3号住居跡が28度、B区8号住居跡が55度と、北東軸に近い傾向がある。8世紀代の住居跡は、B区1号

第4表 竪穴住居跡時期別一覧

	6 C 末～ 7 C 初	7 C		8 C 第1	8 C 第2	8 C 半ば	10 C 後半
		7 C 前半	7 C 後半				
A区	1住	3住					2住
B区	6住			9住→4住	5住	1住・3住	2住
	11住→8住						

※ B区7・10住は省略

第5表 竪穴住居跡計測値一覧

住居名	規模(南北×東西)/形態	主軸	貼り床	カマド/主軸	貯蔵穴
A区 1	3.5m×3.45m/正方形	N-46°-E	なし	東辺南寄り/N-52°-E	カマド右
A区 2	4.22m×2.8m/長方形	N-90°	一部	南東隅/N-80°-W	南東隅
A区 3	3.22m以上×2.84m以上	N-28°-E	なし	未確認	不明
B区 1	3.40m×2.15m/長方形	N-71°-E	なし	南東隅/N-71°-E	不明
B区 2	1.25m以上×3.10m以上	N-14°-E	なし	未確認	不明
B区 3	3.65m×3.80m/正方形	N-80°-E	なし	東辺中央/N-87°-W	カマド右
B区 4	2.43m以上×3.24m以上	N-88°-E	一部	東辺中央/N-80°-E	不明
B区 5	4.34m×4.30m以上	N-67°-E	一部	東辺中央南寄り/N-87°-W	南東隅
B区 6	1.13m以上×1.03m以上	不明	なし	未確認	不明
B区 7	1.40m以上×1.20m以上	N-31°-W	あり	未確認	不明
B区 8	5.37m×4.12m以上	N-55°-E	あり	東辺中央/N-69°-E	南東隅
B区 9	5.03m×4.30m以上	N-66°-E	あり	東辺中央南寄り/N-70°-E	南東隅
B区 10	2.35m以上×4.80m	不明	なし	重複のため消滅か	不明
B区 11	1.16m以上×0.92m以上	不明	なし	重複のため消滅か	不明

住居跡が71度、同3号住居跡が80度、同4号住居跡が88度、同5号住居跡が67度、同9号住居跡が66度で、北東軸の東寄りに軸を取る傾向があり、一部真東に近いものもある。10世紀後半では、A区2号住居跡は真東軸であり、B区2号住居跡は誤差が大きいが概ね東軸に近い。主軸方位に関しては、時代的な志向をほぼうかができる。

カマドについては、判明しているものはすべて、東辺か南東隅に設けられており、貯蔵穴はそれに合わせて、カマド右前脇か南東隅となっている。貼り床は時期に関係なく半数で確認されたが、柱穴は不明確なものが多い。

(2)出土遺物

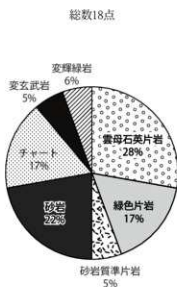
住居跡出土の土器では、地域的な特色として胎土に片岩や海綿骨針を含むものがあるが、顕著なものではない。こうした傾向はむしろこも編み石で顕著であり、片岩の占める割合が多い。参考に棒状礫も加えてグラフ化した。

土器の胎土を細かく見ると、7世紀代の住居跡では、B区8号住居跡の土師器甕で白色岩片や片岩、砂粒を多く含むものが多い。出土量は少ないが、A区1・B区6・11号住居跡も同じである。特筆される点として、カマドでの使用状況をうかがわせる甕類が、B区8号住居跡で4点出土している。詳細は本文中に記載したので省略するが、ススや粘土の付着が著しく認められる。

8世紀代の住居跡では、B区3・4号住居跡の土師器杯・甕が細砂粒を含むか精良なものが多い。この傾向は、B区1・5・9号住居跡でもうかがうことができる。

10世紀後半の住居跡では、須恵器の碗・羽釜に白色岩片や片岩、小礫、砂粒を多く含む傾向が認められる。同時期では13号土坑出土の杯も同様である。

第6表 こも編み石・棒状礫石材組成表



雲母石英片岩	5点
緑色片岩	3点
砂岩質準片岩	1点
砂岩	4点
チャート	3点
変玄武岩	1点
変質緑岩	1点
合計	18点

遺物観察表

遺物観察表

探検番号 図面番号	遺構名 出上位	種別 器種	①残存②口径③底径④器高 /①残存②長さ③幅④厚さ⑤重さ	①胎土 ②色調③構成④石材	形・成調等	備考
第7図1 P.L.19	A区1住 床直	土師器 杯	①2/5 ②(13.1)	①精良 ②橙③酸化	外底ケズリ。	
第7図2 P.L.19	A区1住 床直	土師器 杯	①2/5 ②(10.8)③(4.1)	①砂粒含 ②橙③酸化	外底ケズリ、内外面器表荒れ。	
第8図3 P.L.19	A区1住 床直	土師器 杯	①口縁部一部欠損 ②12.0④4.4	①砂粒含 ②橙③酸化	外底ケズリか、内外面器表荒れ。	
第8図4 P.L.19	A区1住 床直	土師器 杯	①3/6 ②12.7④4.5	①精良 ②橙③酸化	外底ケズリ、歪みあり。	二次被熱か
第8図5 P.L.19	A区1住 床直	土師器 費	①底部のみ ③5.0	①砂粒多、白色粒子含 ②明赤③酸化	外底木葉痕か、体部外面ケズリ。	二次被熱
第8図6 P.L.19	A区1住 こも編石	石製品 こも編石	①ほぼ正形 ②18.0③7.0④4.5⑤603.4g	①砂岩		欠損あり
第8図7 P.L.19	A区1住 —6	石製品 こも編石	①完形 ②14.5③5.6④5.4⑤405.0g	①チャート		
P.L.19-8	A区1住 こも編石	石製品 こも編石	①完形 ②16.5③7.8④6.6⑤1066g	①砂岩		
P.L.19-9	A区1住 こも編石	石製品 こも編石	①ほぼ正形 ②16.3③6.8④5.6⑤832.6g	①砂岩質薄片岩		
P.L.19-10	A区1住 こも編石	石製品 こも編石	①完形 ②18.0③6.6④4.6⑤824.9g	①雲母石英片岩		
P.L.19-11	A区1住 こも編石	石製品 こも編石	①完形 ②18.3③8.3④5.1⑤1040.0g	①砂岩		
P.L.19-12	A区1住 こも編石	石製品 こも編石	①完形 ②15.8③7.0④5.8⑤1010.8g	①砂岩		
P.L.19-13	A区1住 こも編石	石製品 こも編石	①完形 ②19.2③8.0④4.3⑤1040.6g	①砂岩		
P.L.19-14	A区1住 こも編石	石製品 こも編石	①完形 ②18.6③7.5④4.4⑤644g	①雲母石英片岩		
P.L.19-15	A区1住 こも編石	石製品 こも編石	①完形 ②18.5③5.9④6.3⑤949.1g	①雲母石英片岩		
P.L.19-16	A区1住 こも編石	石製品 こも編石	①完形 ②15.8③7.0④3.1⑤515.9g	①雲母石英片岩		
P.L.19-17	A区1住 こも編石	石製品 こも編石	①2/3 ②11.0③6.0④4.2⑤424.0g	①チャート		
P.L.19-18	A区1住 こも編石	石製品 こも編石	①完形 ②14.4③7.5④4.3⑤754.3g	①チャート		
P.L.19-19	A区1住 こも編石	石製品 こも編石	①1/2 ②16.2③6.0④3.7⑤433.0g	①変輝緑岩		
第11図1 P.L.19	A区2住 +8	須恵器 椀	①口縁部一部欠損、高台部欠損 ②15.6	①砂粒・小礫多②にぶい ③黄橙④酸化気味	外底回転系切り後高台貼付け。	高台剥げ
第11図2 P.L.19	A区2住 床直	須恵器 椀	①高台部欠3/5 ②(16.4)	①砂粒を含む②にぶい ③黄橙④酸化気味	外底回転系切り、高台剥げ。	
第11図3 P.L.19	A区2住 床直	須恵器 杯	①3/5 ②(12.4)③6.3④3.8	①砂粒多 ②橙③酸化	外底右回転系切り。	
第11図4 P.L.19	A区2住 床直	須恵器 杯	①3/5 ②11.1③5.0④3.4	①砂粒多、白色粒子含 ②橙③酸化	外底右回転系切り。	
第11図5 P.L.19	A区2住 床直	須恵器 椀	①口縁部欠損 ③6.2	①砂粒含②にぶい黄橙 ③酸化気味	外底回転系切り、高台貼り付け。	
第11図6 P.L.19	A区2住 褐色土器 椀	①1/5 ②(15.3)	①砂粒多、白色岩片含 ②黄③酸化気味	内面ミガキ、外底回転系切り後高台貼付け。	高台剥げ	
第11図7 P.L.19	A区2住 +3	須恵器 羽釜	①口縁~胴中位片 ②(24.6)	①砂粒多、片岩含 ②にぶい黄橙③酸化	外面下位に削り、内外面回転ナデ。	二次被熱
第11図8 P.L.19	A区2住 +8	須恵器 羽釜	①口~体上部片 ②(22.0)	①砂粒含 ②にぶい橙③還元	口縁部直立気味、内外面回転ナデ、外面に粘土付着。	
第11図9 P.L.20	A区2住 須恵器 羽釜	①口縁部片 ②(24.8)	①砂粒含 ②灰褐③酸化気味	①砂岩 ②灰褐③酸化気味	口唇部くぼむ、跨断面方形。	
第11図10 P.L.20	A区2住 +9	須恵器 羽釜	①口~体上部片 ②(22.0)	①砂粒・小礫多 ②橙③酸化	体部外面ケズリ。	二次被熱
第11図11 P.L.20	A区2住 +12	須恵器 羽釜	①口~体上部片	①砂粒・小礫多 ②橙③酸化	体部外面ケズリ。	器表荒れ

検出番号 図版番号	遺構名 出土位置	種別 器種	①残存2口径②底径③器高 /④残存全長⑤幅⑥厚さ⑦重さ	①胎土 ②色調③焼成/④石材	形・成調整等	備考
第11図12 P.L.20	A区2住 +4	須恵器 羽釜	①胴下位～底部 ②(6.8)	①砂粒含 ②粗③酸化	体部外面ケズリ、外底不明圧痕。	二次被熱
第11図13 P.L.20	A区3住	土師器 甕	①底部 ②(10.0)	①砂粒含 ②にぶい③還元	内底回転ナデ、羽釜。	
第11図14 P.L.20	A区3住	土師器 甕	①口縁部 ②(22.0)	①砂粒多 ②粗③酸化	口唇部内面に丸み。	
第12図15 P.L.20	A区2住	石製品 台石か	①1.2②長22.3③幅13.7④厚9.5 ⑤3668.9g	①粗粒輝石安山岩	全周磨削。上・下面の磨り面に肌分付着。火受け。	
第13図1 P.L.20	A区3住	土師器 杯	①口縁2/3 ②(10.9)	①砂粒含 ②明赤褐色③酸化	外面に稜あり。	
第13図2 P.L.20	A区3住 床直	土師器 杯	①1/4 ②(12.2)	①細砂粒含 ②粗③酸化	口唇部内面に凹線、外面に稜、外底ケズリ。	
第13図3 P.L.20	A区3住	土師器 杯	①1/4 ②(13.0)③(4.4)	①砂粒含 ②粗③酸化	外底ケズリ、外面に稜あり。	
第13図4 P.L.20	A区3住	土師器 杯	①1/2 ②13.0③4.2	①砂粒含 ②にぶい③酸化	外底ケズリか、内外面器表荒れ、赤みあり。	内面煤付着
第13図5 P.L.20	A区3住 床直	土師器 杯	①完形 ②12.2③4.2	①砂粒含 ②粗③酸化	外底ケズリ。	
第18図1 P.L.20	A区遺構 外	縄文土器 深鉢	①破片	①小礫多②にぶい③粗④酸化	縦位縄文R.L.施文後、棒状具による沈殿で懸垂文施す。	加賀利E3
第18図2 P.L.20	A区遺構 外	打製石斧	①2/3 ②9.2③5.0④56.4g	①硬質泥岩	側縁の打痕が顕著。背面側に被熱剥離あり。下半欠損。完成状態。	
第18図3 P.L.20	A区1溝	土師器 杯	①破片 ②(12.0)	①砂粒含 ②粗③酸化	外面口唇部横ナデ底ケズリ。	7C後半
第20図1 P.L.20	B区1住 床直	土師器 杯	①1/2 ②(13.0)	①細砂粒含 ②にぶい③粗④酸化	外底ケズリ。	内外面煤付着
第20図2 P.L.20	B区2住 床直	土師器 杯	①ほぼ完形 ②12.8③3.3	①砂粒含 ②にぶい③粗④酸化	外底ケズリ、内面に炭化物付着。	二次被熱か
第20図3 P.L.20	B区3住 床直	須恵器 杯	①口縁部一部欠損 ②13.0③7.8④4.1	①白色粒片含 ②灰③還元	外底右回転糸切り後両縁回転ケズリ、磨滅。	内底も磨滅
第20図4 P.L.20	B区1住	須恵器 甕	①口縁部 ②(10.8)	①白色粒片含 ②灰③還元	内外面回転ナデ。	
第20図5 P.L.20	B区1住 床直	土師器 甕	①底部欠損 ②(23.7)	①細砂粒含 ②粗③酸化	体部外面ケズリ、外面に煤付着(カマド痕跡か)。	二次被熱
第21図1 P.L.20	B区2住	須恵器 羽釜	①1/3 ②(10.3)③(6.2)④2.6	①砂粒多 ②灰褐色③酸化気味	外底回転糸切り。	内面煤付着か
第21図2 P.L.20	B区2住	須恵器 羽釜	①口縁部片 ②(22.0)	①小礫多 ②にぶい③粗④酸化気味	口唇部こぼり、口縁部直立、磨削弱。	
第23図3-1 P.L.21	B区3住 床直	土師器 杯	①ほぼ完形 ②14.0③4.4	①細砂粒含 ②粗③酸化	内外面器表荒れ。	
第23図3-2 P.L.21	B区3住 床直	土師器 杯	①1/2 ②(13.1)③(3.8)	①細砂粒含 ②にぶい③粗④酸化	外底ケズリか、器表荒れ。	
第23図3-3 P.L.21	B区3住 床直	土師器 杯	①口縁部片 ②(15.6)	①砂粒多 ②粗③酸化	内外面器表荒れ。	二次被熱か
第23図3-4 P.L.21	B区3住 床直	土師器 杯	①1/4 ②(11.8)③3.0	①細砂粒含 ②にぶい③粗④酸化	外底ケズリ。	
第23図3-5 P.L.21	B区3住 +6	土師器 杯	①2/5 ②(14.8)③3.9	①砂粒含 ②明赤褐色③酸化	外底ケズリ、内外面炭化物付着。	
第23図3-6 P.L.21	B区3住	土師器 甕	①口縁部片 ②(26.0)	①細砂粒含 ②にぶい③粗④酸化	体部外面ケズリ。	口唇部に丸み
第23図3-7 P.L.21	B区3住	土師器 甕	①口縁～胴部片 ②(26.4)	①細砂粒含 ②にぶい③粗④酸化	体部外面ケズリ、外面下位に煤付着。内面炭化物付着。	
第23図3-8 P.L.21	B区3住	土師器 甕	①底部片	①砂粒・小礫含 ②粗③酸化	2孔残、多孔の瓶。	
第23図3-9 P.L.21	B区3住 床直	石製品 棒状礫	①完形 ②18.0③6.5④4.5⑤813.6g	①緑色片岩		
第23図6-1 P.L.21	B区6住	土師器 甕	①胴上位片	①砂粒多、片岩含 ②粗③酸化	頸部外面に段。	
第25図1 P.L.21	B区4住 床直	土師器 杯	①1/4 ②(11.8)③3.6	①砂粒多 ②粗③酸化	体部外面ケズリか、器表荒れ。	
第25図2 P.L.21	B区4住	土師器 杯	①底部欠、口縁1/2 ②(14.5)	①細砂粒含 ②明赤褐色③酸化	外底ケズリ。	二次被熱

遺物観察表

調査番号 調査番号	遺構名 出土位置	種別 器種	①残存径/口径③底径④器高 /①残存長さ③幅④厚さ⑤重さ	①胎土 ②色調③構成/④石材	形・調整等	備考
第25図3 P.L.21	B区4住	土師器 杯	①1/4 ②(14.1)	①細砂粒含 ②糖③酸化	外底ケズリ。	
第25図4 P.L.21	B区4住	土師器 杯	①1/3 ②(18.5)	①細砂粒含 ②糖③酸化	外底ケズリ。	器表荒れ
第25図5 P.L.21	B区4住	土師器 杯	①1/4 ②(13.5)	①細砂粒含 ②糖③酸化	外底ケズリ。	器表荒れ
第25図6 P.L.21	B区4住 床直	土師器 杯	①2/3 ②12.5③3.2	①細砂粒含 ②明礬③酸化	外底ケズリ。	二次被熱
第25図7 P.L.21	B区4住 床直	土師器 杯	①完形 ②13.0③3.6	①細砂粒含 ②明赤褐③酸化	外底ケズリ、内面ナデ。	
第25図8 P.L.21	B区4住	土師器 杯	①1/2⑨ ②(16.0)	①細砂粒含 ②明赤褐③酸化	外底ケズリ。	歪みあり
第25図9 P.L.21	B区4住 +23	土師器 杯	①1/2 ②15.0③3.6	①細砂粒含 ②糖③酸化	外底ケズリ。	
第25図10 P.L.21	B区4住 +9	土師器 小型壺	①口~底1/2 ②(15.5)③(6.0)④(15.5)	①細砂粒含 ②糖③酸化	体部外面ケズリ、内面ナデ。	外底近く煤付着
第26図11 P.L.21	B区4住 +10	土師器 壺	①口~胴下位 ②23.3	①細砂粒含 ②糖③酸化	体部外面ケズリ、内面ナデ。	正面内側口~胴 炭化物汚れ付着。
第26図12 P.L.21	B区4住	土師器 費	①口縁部1/2 ②(23.8)	①細砂粒含 ②糖③酸化	体部外面ケズリ、口唇部薄い。	二次被熱か
第26図13 P.L.21	B区4住 床直	土師器 費	①口縁部片 ②(20.5)	①細砂粒含 ②糖③酸化	体部外面ケズリ、内面ナデ。	二次被熱
第26図14 P.L.22	4号住居 +9	土師器 費	①口縁部4/5 ②(18.1)	①細砂粒含 ②明礬③酸化	胴部厚い、体部外面ケズリ。	内面器表荒れ
第26図15 P.L.22	B区4住 床直	土師器 壺	①胴下位~底1/2 ③6.0	①細砂粒含 ②にぶい糖③酸化	体部内面器表荒れ、薄い。	外面煤付着
第26図16 P.L.22	B区4住 +20	土師器 費	①胴上~下位 ②胴部最大径(21.4)	①細砂粒含 ②明赤褐③酸化	体部外面ケズリ、内面に接合痕あり。	二次被熱
第26図17 P.L.22	B区4住 +10	土師器 費	①口~底1/2 ②(18.5)③6.1④32.1	①細砂粒含 ②糖③酸化	体部外面ケズリ、外面に煤付着。	二次被熱、薄い。
第26図18 P.L.22	B区4住	土師器 壺	①底部片 ③(6.7)	①細砂粒含 ②糖③酸化	体部外面ケズリ。	二次被熱
第26図19 P.L.22	B区4住 +38	土師器 鉢か	①口縁部片 ②(32.6)	①砂粒含、海綿状針含 ②にぶい赤褐③酸化	体部外面ケズリ。	疵の可能性あり
第26図20 P.L.22	B区4住	石製品 不明	①ほぼ完形 ②11.0③8.5④1.5⑤232.6g	①雲母石英片岩	一端に最打痕。	
第28図1 P.L.22	B区5住	土師器 杯	①1/5 ②(13.4)	①細砂粒含 ②糖③酸化	内外面器表荒れ。	外底ケズリか
第28図2 P.L.22	B区5住	土師器 杯	①1/3 ②(16.0)	①細砂粒多 ②糖③酸化	外底非回転ケズリ。	
第28図3 P.L.22	B区5住	土師器 鉢か	①口縁部片 ②(15.0)	①精良 ②糖③酸化	体部外面ケズリ、口縁部との境に 稜あり。	
第28図4 P.L.22	B区5住 床直	土師器 費	①胴下位~2/3 ②21.8	①細砂粒含 ②糖③酸化	口縁部内面くぼむ、体部外面ケズリ、 体部内面炭化物付着。	口縁部歪み強い、 二次被熱。
第28図5 P.L.22	B区5住 床直	土師器 費	①口~胴部片 ②(21.9)	①白色岩片・細砂粒含 ②糖③酸化	体部外面ケズリ、内面工具ナデ。	
第28図6 P.L.22	B区5住 床直	土師器 費	①口~胴下位 ②24.0	①細砂粒含 ②糖③酸化	体部外面ケズリか、器表荒れ。	内面下位に接合 痕
第28図7 P.L.22	B区5住	土師器 壺	①底部片 ③(12.4)	①砂粒多、白色粒子含 ②糖③酸化	単孔の甕。	
第29図8 P.L.22	B区5住 鉢か	土師器 費	①口~底部1/3 ③(24.0)	①砂粒多 ②にぶい糖③酸化、軟	体部外面に接合痕。	外底煤付着
第29図9 P.L.22	B区5住	石製品 棒状礫	①完形 ②15.5③5.5④5.0⑤755.7g	①変玄武岩		
第32図1 P.L.23	B区8住 +20	土師器 杯	①1/3 ②(11.6)④4.2	①砂粒含 ②糖③酸化	外面に稜あり、内外面器表荒れ。	
第32図2 P.L.23	B区8住 -6	土師器 杯	①2/3 ②11.6④3.8	①砂粒含 ②糖③酸化	内外面器表荒れ、粉っぽい、外底 あり。	外底ケズリか
第32図3 P.L.23	B区8住 +23	土師器 杯	①1/4 ②(16.7)	①砂粒含 ②糖③酸化	体部外面ケズリ、口縁部との境に 稜あり、粉っぽい。	内外面器表荒れ
第32図4 P.L.23	B区8住 +12	土師器 杯	①ほぼ完形 ②11.2④3.6	①砂粒含 ②糖③酸化	外底ケズリ、粉っぽい。	歪みあり

調査番号 図版番号	遺構名 出土位置	種別 器種	①残存2口径②底径③器高 /④残存⑤長さ⑥幅⑦厚さ⑧重さ	①胎土 ②色調③組成/④石材	形・成調整等	備考
第32図5 P.L.23	B区8住 床直	土師器 長甕	①胴～胴部下平無し ②21.1	①砂粒・片岩多 ②にぶい③酸化	体部外面ケズリか、器表荒れ。	
第32図6 P.L.23	B区8住 +19	土師器 小甕	①胴～底部 ②36.3	①砂粒含 ②明褐色酸化	体部外面ケズリ、外底ケズリ、保 付着。	二次被熱、保付 着、右側黒斑、 裏面火受強。
第32図7 P.L.23	B区8住 床直	土師器 甕	①下半部 ②3.0	①白色岩片含 ②にぶい③酸化	体部外面ケズリ、外底小さく磨滅 している。	二次被熱、正面・ 裏面火受弱、体 部外面に粘土付 着。
第32図8 P.L.23	B区8住 土師器 小型甕	①ほぼ完形 ②11.0③6.9④9.7	①細砂粒含 ②明赤褐色酸化	外面－口縁部内面に細かい凹凸あ り、外底磨滅、口縁部破損か、外 底やや凸。	二次被熱、底部 黒斑、上位火受 強。	
第32図9 P.L.23	B区8住 不明	石製品	①2/3 ②6.8③6.7④1.1⑤74.1g	①変質安山岩		
第33図10 P.L.23	B区8住 -6	土師器 長甕	①ほぼ完形 ②19.6③4.6④33.6	①白色岩片、片岩含 ②褐色酸化	体部外面ケズリ、体部下位外面に 焼成前植物圧痕、カマド火当たり 顕著、口縁部歪みあり。	二次被熱
第33図11 P.L.23	B区8住 床直	土師器 長甕	①ほぼ完形 ②19.4③5.5④33.8	①砂粒含 ②明褐色酸化	体部外面ケズリ後、斜位整形（植 物束か）、体部内面に接合痕、外面 泥・粘土付着、外底磨滅。	二次被熱
第33図12 P.L.23	B区8住 床直	土師器 甕	①1/3 ②15.6	①砂粒多、片岩含 ②褐色酸化	体部外面口縁部に向かうケズリ、 歪みあり。	二次被熱、内面 全体火受け顕著。
第33図13 P.L.23	B区8住 床直	土師器 長甕	①1/2 ②21.5	①白色岩片多 ②にぶい③酸化	体部外面ケズリ、外面に保付着。	二次被熱
第33図14 P.L.23	B区8住 -6	石製品 棒状礫	①完形 ②17.5③7.0④3.9⑤881.4g	①緑色片岩		
第34図1 P.L.24	B区11住 土師器 甕	①胴上片 ②	①砂粒・片岩含 ②にぶい③酸化	頸部外面に凹線。		
第35図1 P.L.24	B区9住 +15	土師器 杯	①1/2 ②10.4③3.5	①砂粒多 ②褐色酸化	外底ケズリ。	
第35図2 P.L.24	B区9住 土師器 杯	①1/3 ②(12.0)	①細砂粒含 ②褐色酸化	外底ケズリ。		
第35図3 P.L.24	B区9住 +10	土師器 杯	①1/3 ②(13.2)③(4.1)	①砂粒含 ②褐色酸化	口縁部内湾する、外底ケズリ。	器表荒れ、一部 保付着。
第35図4 P.L.24	B区9住 土師器 杯	①1/4 ②(11.7)③(3.5)	①精良 ②褐色酸化	外底ケズリか、内外面器表荒れ。	粉っぽい	
第36図5 P.L.24	B区9住 +42	土師器 杯	①3/4 ②12.6③4.5	①細砂粒多 ②褐色酸化	外底ケズリ、器表荒れ。	
第36図6 P.L.24	B区9住 +16	土師器 杯	①1/3 ②(13.8)	①細砂粒含 ②褐色酸化	口縁部内湾気味、外底ケズリ。	一部保付着
第36図7 P.L.24	B区9住 土師器 皿	①1/4 ②(16.0)③(3.5)	①砂粒多 ②褐色酸化	外底ケズリ。	二次被熱	
第36図8 P.L.24	B区9住 +8	土師器 杯	①口縁部片 ②(15.8)	①砂粒含 ②褐色酸化	外底ケズリ、内外面炭化物付着。	
第36図9 P.L.24	B区9住 土師器 杯	①口縁部片 ②(17.0)	①細砂粒含 ②にぶい③黄褐色酸化	外底ケズリ。		
第36図10 P.L.24	B区9住 -8	土師器 皿	①1/3 ②(20.0)③(4.7)	①砂粒含 ②褐色酸化	外底ケズリ、内面に細かい凹凸あり。	
第36図11 P.L.24	B区9住 土師器 杯	①1/2 ③(11.2)	①砂粒含 ②灰白③還元	外底回転ケズリ。	上げ底状	
第36図12 P.L.24	B区9住 須恵器 鏝か	①破片 ②(12.2)	①白色粒子含 ②黄灰③還元	内外面回転ナデ、窯体又は洋の現 付着。		
第36図13 P.L.24	B区9住 土師器 甕	①胴部片	①白色岩片多 ②褐色酸化	体部外面ケズリ後ナデ。	二次被熱、外面 保付着、下半火 受けで乳白色化、 黒斑化。	
第36図14 P.L.24	B区9住 床直	土師器 甕	①胴下部～底部片 ③(6.8)	①細砂粒含 ②褐色酸化	体部外面ケズリ。	
第36図15 P.L.24	B区9住 床直	須恵器 甕	①胴部片	①白色粒子含 ②灰③還元	外面格子目々タキ、内面同心円当 て具痕。	
第37図13-1 P.L.24	B区7住 +9	須恵器 杯	①1/2 ②(9.5)③(5.4)④2.8	①砂粒やや多 ②褐色酸化	外底右回転断切り。内面見込みに スス付着。	

遺物観察表

種別番号 図版番号	遺構名 出土位置	種別 器種	①残存2口径③底径④器高 /①残存②長さ③幅④厚さ⑤重さ	①胎土 ②色調③組成/④石材	形・成調整等	備考
第37図13-2 P.L.24	B区13土	須恵器 杯	①3/4 ②15.5③8.2④4.2	①小礫多、片岩含 ②橙③酸化	外底左回転糸切り。	
第38図8-1 P.L.24	B区8土	石製品 棒状鏝	①完形 ②16.0③4.3④3.2⑤306.2g	①緑色片岩		
第39図1 P.L.24	B区2・ 3住	縄文土器 深鉢	①破片	①砂粒やや多 ②橙③酸化	縦位器糸文施文後、棒状具による 横位沈没痕す。	加曾利E2
第39図2 P.L.24	B区3住	打製石斧	①2/3 ②8.9③4.3④138.5g	①硬質泥岩	裏面側は節理面から斜め破損する。 刃部再生時に破損した可能性あり。	
第39図3 P.L.24	B区5住	土製品 埴輪	①破片	①細砂粒含 ②にぶい③橙③酸化	円筒埴輪底部か、板目状のタテハケ。	
第39図4 P.L.24	B区遺構 外	須恵器 杯	①2/3 ②15.8③11.8④3.2	①精良 ②灰白③還元	外底と体部下位回転ケズリ。	上げ底状7C末
第39図5 P.L.18・24	B区遺構 外	須恵器 椀	①口縁一部欠 ②12.7③7.0④6.0	①小礫多、白色粒子・ 片岩・海綿骨針含 ②にぶい③橙③酸化気味	内外面回転ナデ、高台が林部中心 からずれている。全体に歪みあり。	底部に孔。10C 後半

写真図版



1. A区東側全景(南から)



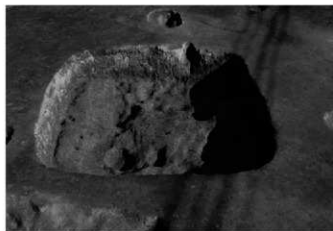
2. A区西側全景(東から)



3. B区全景(西から)



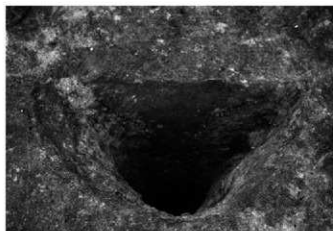
1. A区1号住居跡遺物出土状態（西から）



2. A区1号住居跡掘り方全景（西から）



3. A区1号住居跡カマド全景（西から）



5. A区1号住居跡貯蔵穴断面（西から）



4. A区1号住居跡カマド断面（西から）



1. A区2号住居跡全景（北西から）



2. A区2号住居跡カマド全景（北西から）



4. A区2号住居跡貯蔵穴断面（南から）



3. A区2号住居跡カマド断面（西から）



5. A区2号住居跡床下土坑断面（東から）



1. A区3号住居跡全景（北から）



2. A区3号住居跡掘り方全景（南西から）



4. A区3号住居跡南西部状況（北東から）



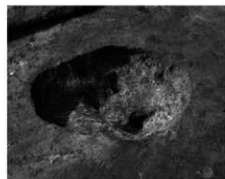
3. A区3号住居跡掘り方断面（南西から）



5. A区3号住居跡遺物出土状態（北から）



1. A区2号土坑全景(東から)



3. A区3号土坑全景(南から)



5. A区4号土坑全景(東から)



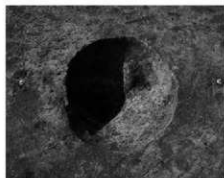
2. A区2号土坑断面(南から)



4. A区3号土坑断面(南から)



6. A区4号土坑断面(南東から)



7. A区5号土坑全景(東から)



9. A区6号土坑全景(東から)



11. A区7号土坑全景(南から)



8. A区5号土坑断面(西から)



10. A区6号土坑断面(北西から)



12. A区7号土坑断面(南から)



13. A区8号土坑全景(南西から)



14. A区8号土坑断面(南西から)



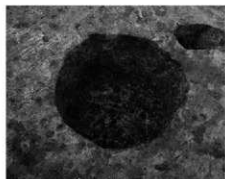
15. A区15号土坑全景(北から)



1. A区10号土坑全景(北から)



3. A区16号土坑全景(北から)



5. A区19号土坑全景(北から)



2. A区10号土坑断面(南西から)



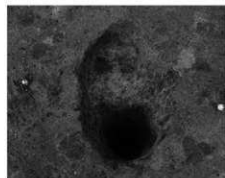
4. A区16号土坑断面(北から)



6. A区19号土坑断面(南西から)



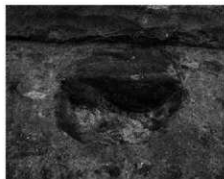
7. A区20号土坑全景(南東から)



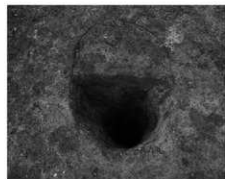
9. A区1号土坑全景(南から)



11. A区9号土坑全景(東から)



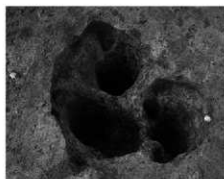
8. A区20号土坑断面(南から)



10. A区1号土坑断面(南から)



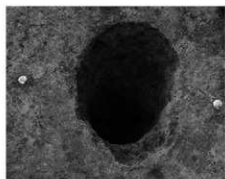
12. A区9号土坑断面(西から)



13. A区11号土坑全景(南から)



14. A区11号土坑断面(南から)



15. A区12号土坑全景(東から)



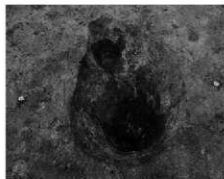
1. A区12号土坑断面(南から)



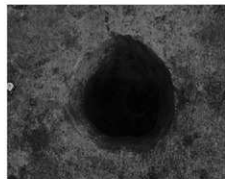
2. A区13号土坑断面(南から)



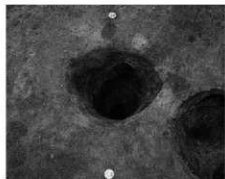
3. A区14号土坑断面(北から)



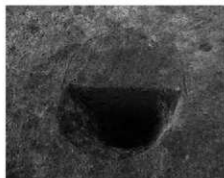
4. A区17号土坑全景(南西から)



6. A区18号土坑全景(北西から)



8. A区21号土坑全景(北から)



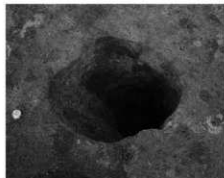
5. A区17号土坑断面(南から)



7. A区18号土坑断面(南東から)



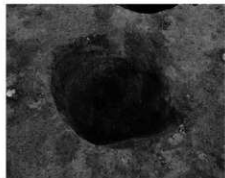
9. A区22号土坑全景(北から)



10. A区23号土坑全景(西から)



11. A区24号土坑全景(西から)



12. A区25号土坑全景(西から)



1. A区1号溝全景（北西から）



2. A区1号溝A断面（南東から）



3. A区1号溝B断面（東から）



4. B区1号住居跡全景（西から）



1. B区1号住居跡掘り方全景(西から)



2. B区1号住居跡断面(南から)



3. B区1号住居跡カマド全景(西から)



4. B区1号住居跡カマド断面(南から)



5. B区1号住居跡カマド掘り方全景(西から)



6. B区1号住居跡西南部遺物出土状態(西から)



7. B区2号住居跡全景(北東から)



8. B区2号住居跡断面(北東から)



1. B区3号住居跡全景（西から）



2. B区3号住居跡掘り方全景（西から）



4. B区3号住居跡カマド全景（西から）



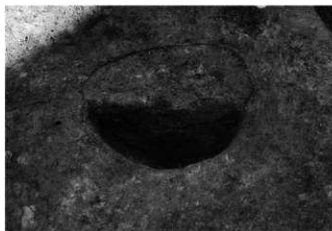
3. B区3号住居跡断面（北から）



5. B区3号住居跡カマド断面（西から）



1. B区3号住居跡貯蔵穴断面（西から）



2. B区3号住居跡ピット1断面（西から）



3. B区6号住居跡全景（北から）



4. B区6号住居跡確認状況（東から）



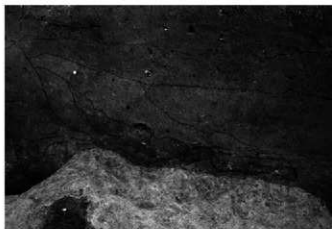
5. B区4号住居跡遺物出土状態（西から）



1. B区4号住居跡掘り方全景（北東から）



2. B区4号住居跡カマド遺物出土状態（北西から）



3. B区4号住居跡カマド断面（北東から）



4. B区4号住居跡カマド掘り方全景（西から）



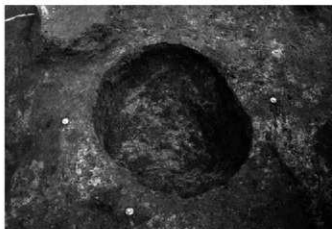
5. B区5号住居跡全景（西から）



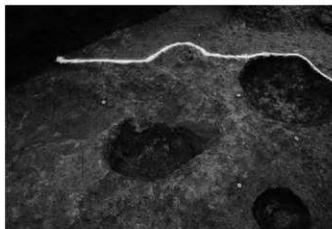
1. B区5号住居跡掘り方全景(西から)



2. B区5号住居跡カマド遺物出土状態(西から)



3. B区5号住居跡貯蔵穴全景(西から)



5. B区5号住居跡カマド掘り方全景(西から)



4. B区5号住居跡貯蔵穴断面(西から)



6. B区5号住居跡ピット1断面(北西から)



7. B区7号住居跡全景(西から)



8. B区7号住居跡掘り方全景(南から)



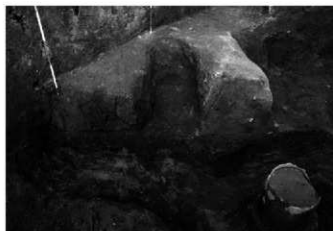
1. B区8号住居跡全景（西から）



2. B区8号住居跡カマド全景（西から）



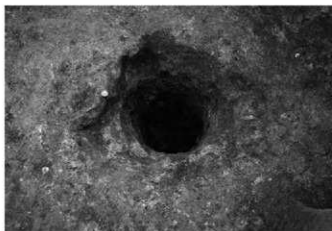
4. B区8号住居跡貯蔵穴遺物出土状態（西から）



3. B区8号住居跡カマド掘り方断面（西から）



5. B区8号住居跡カマド脇遺物出土状態（南から）



1. B区8号住居跡貯蔵穴全景 (西から)



2. B区8号住居跡掘り方遺物出土状態 (西から)



3. B区11号住居跡全景 (南から)



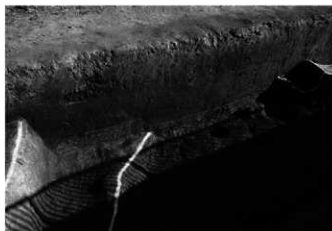
4. B区11号住居跡掘り方全景 (南から)



5. B区9・10号住居跡全景 (西から)



1. B区9号住居跡カマド全景(西から)



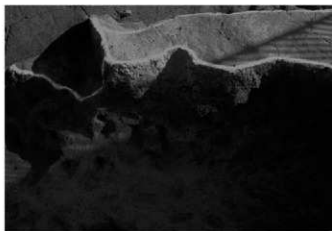
2. B区9・10号住居跡断面(西から)



3. B区9号住居跡カマド断面(南から)



4. B区9号住居跡貯蔵穴断面(北から)



5. B区9号住居跡カマド掘り方全景(西から)



6. B区9号住居跡ピット2断面(北東から)



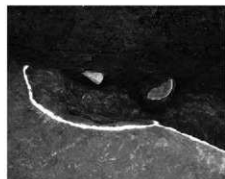
7. B区10号住居跡全景(東から)



8. B区10号住居跡断面(西から)



1. B区11号土坑全景 (北から)



2. B区13号土坑全景 (西から)



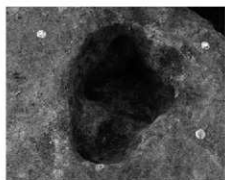
3. B区17号土坑全景 (南から)



4. B区1号土坑全景 (西から)



6. B区2・9号土坑全景 (北から)



8. B区3号土坑全景 (北から)



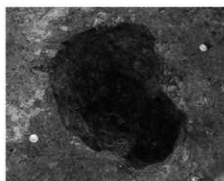
5. B区1号土坑断面 (南西から)



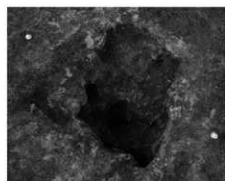
7. B区2号土坑断面 (南から)



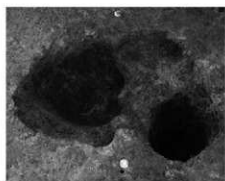
9. B区3号土坑断面 (西から)



10. B区4号土坑全景 (北から)



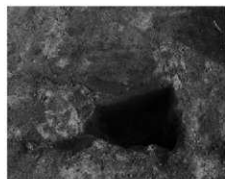
12. B区5号土坑全景 (南から)



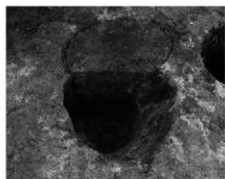
14. B区7・10号土坑全景 (北から)



11. B区4号土坑断面 (北西から)



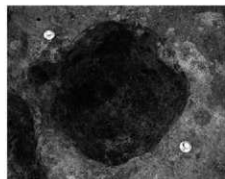
13. B区5号土坑断面 (南西から)



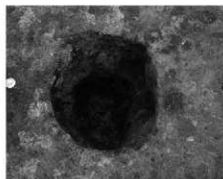
15. B区7号土坑断面 (東から)



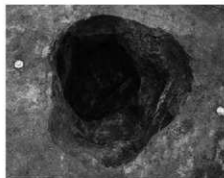
1. B区6号土坑断面（北東から）



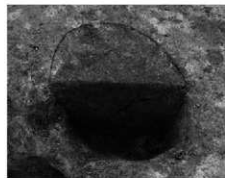
2. B区8号土坑全景（北から）



4. B区14号土坑全景（東から）



6. B区15号土坑全景（東から）



3. B区8号土坑断面（東から）



5. B区14号土坑断面（東から）



7. B区15号土坑断面（東から）



8. B区遺構外遺物5出土状態（北から）



9. A区TP4断面（南西から）



10. A区TP5断面（南西から）



11. B区TP2断面（南西から）



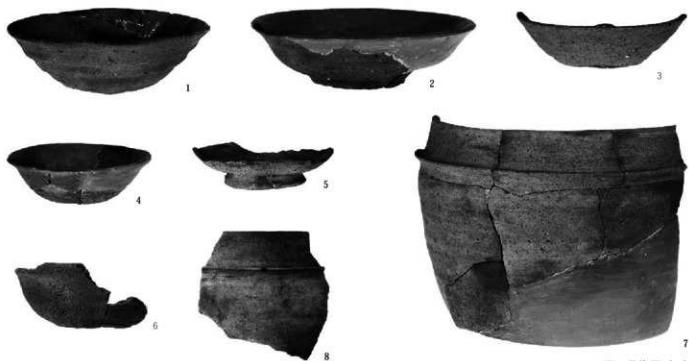
12. A区調査前状況（西から）



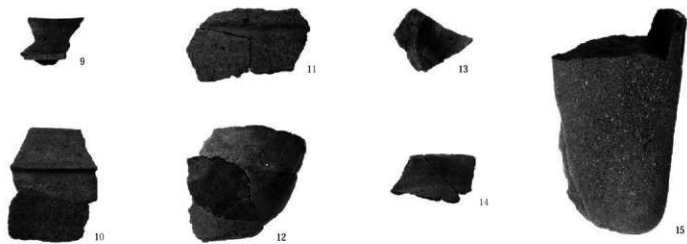
13. B区調査前状況（東から）



A区1号住居



A区2号住居 (1)



A区2号住居 (2)



A区3号住居

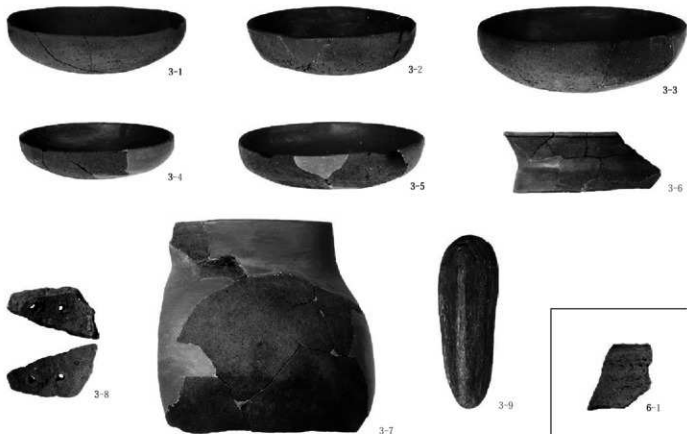


A区遺構外



B区2号住居

B区1号住居

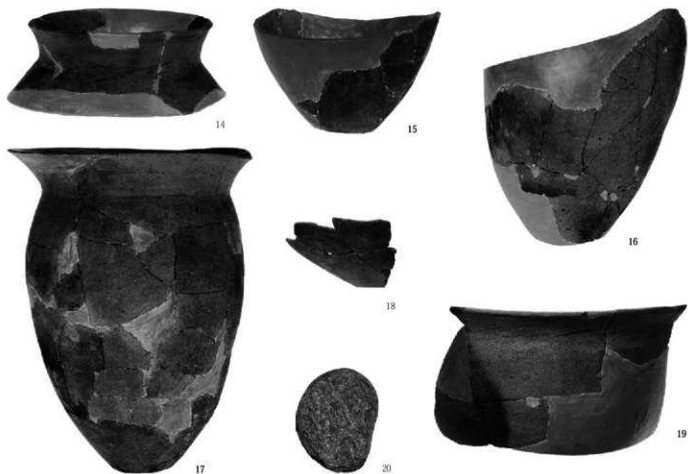


B区3号住居

B区6号住居



B区4号住居(1)

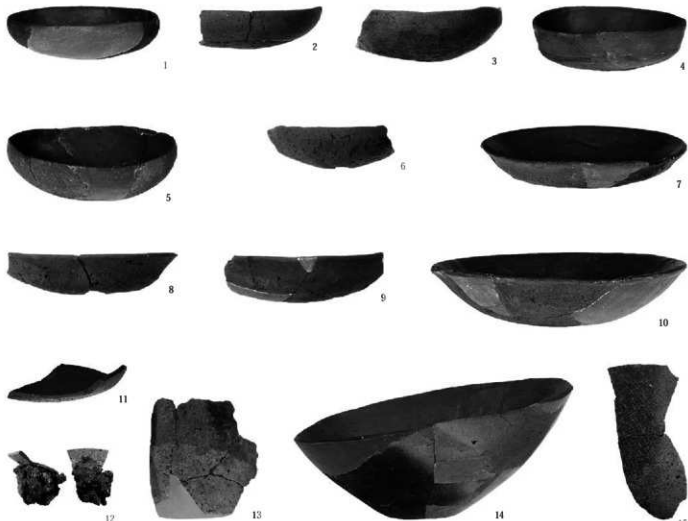


B区4号住居(2)

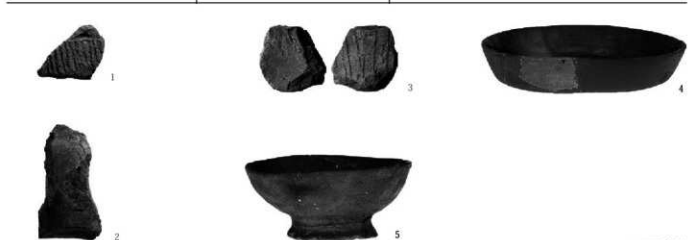


B区5号住居





B区9号住居



B区遺構外

報告書抄録

ふりがな	しもくりすいせづかいせき
書名	下栗須伊勢塚遺跡
副書名	主要地方道藤岡大胡線地域活力基盤創造事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	1
シリーズ名	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	498
編著者名	飯森康広 関晴彦 岩崎泰一
編集機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20100325
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北橋町大字下箱田784-2
遺跡名ふりがな	しもくりすいせづかいせき
遺跡名	下栗須伊勢塚遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんふじおかししもくりすあさいせづか
遺跡所在地	群馬県藤岡市下栗須字伊勢塚
市町村コード	10209
遺跡番号	調349
北韓(日本測地系)	361524
東経(日本測地系)	1390515
北韓(世界測地系)	361536
北韓(世界測地系)	1390504
調査期間	20071101-20071228
調査面積	1100
調査原因	道路建設工事
種別	集落/散布地
主な時代	縄文/古墳/平安/中世・近世
遺跡概要	集落-古墳-竪穴住居7+土坑-土器+石器/集落-奈良・平安-竪穴住居7+土坑-土器+石器/集落-中世・近世-溝1/散布地-縄文-土器+石器/
特記事項	7世紀前半の竪穴住居から出土した土師器裏は、使用状況をうかがわせるスス・粘土などが良好に付着している。
要約	本遺跡は藤岡市街東端部に位置する縄文時代から中世・近世にいたる複合遺跡である。古墳時代の竪穴住居跡7軒と、奈良・平安時代の竪穴住居跡7軒のほか、土坑42基と中世・近世の溝1条を検出した。

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第498集

下栗須伊勢塚遺跡

主要地方道藤岡大胡線地域活力基盤創造事業
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成22年（2010）3月11日 印刷

平成22年（2010）3月25日 発行

編集・発行／財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県沼川市北橋町下箱田784番地2

電話（0279）52-2511（代表）

ホームページアドレス <http://www.gunmaiban.org/>

印刷／上海印刷工業株式会社
